

2. 生駒らしい景観のパターン

パターンは、「生駒らしい」景観を考えるヒント・手がかりです

景観という切り口で、「生駒らしい」と感じられるものをパターンとして集めてみました。これらの景観のパターンは、生駒らしい景観づくりを考える上でのヒントと手がかりとなるものです。

パターンをヒントに「生駒の良さ」を感じてみませんか。

【こんな使い方ができます】

- 生駒のまちの良さを学ぶのに、この本を活用してみませんか。このパターンは景観だけでなく、生駒のまちそのものの理解にも役立つ、教科書としても活用できます。
- ご自身がお住まいのまちの「らしさ」は何でしょうか？このパターンを参考にして考えてみるのも良いですね。そこから、どんなまちなみがふさわしいかを考える手がかりにもなります。

※ワークショップ形式での話し合いや、地域の方々・子どもたちを対象にこのパターンを使って、地域の景観の特徴を探すゲームを開催してみるのも良いですね。

パターンは、読み解き・守るべきこと・工夫の3つで構成されています

まず、生駒らしい良い景観の特徴をつくり出しているものは何なのかを読み解いて解説しています。

その上で、生駒らしい良い景観をつくるために「これは大切にしなければならない」という基本的な事柄と、その考え方を書いています。

さらに、それに沿って計画や設計の際の創意工夫の事例を示しています。「これを採り入れることでより地域の方々にも愛される、より良い景観ができる」という具体的なヒントを示すものです。

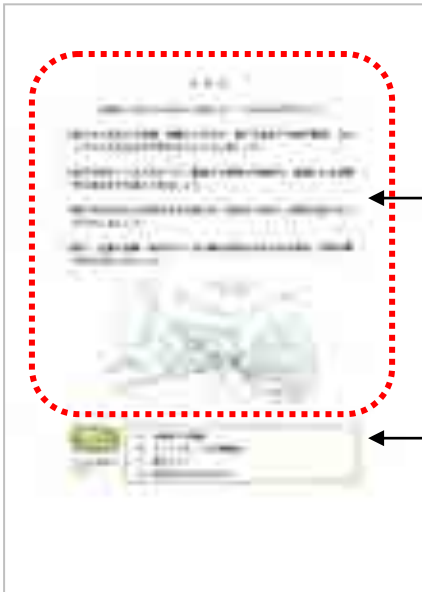
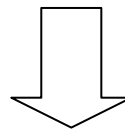
これらを参考にして、よりすてきな・豊かな街並みづくりに向けて、みなさんができることを考えてみませんか。



← パターンの名称、分類が記載されています。

← **【生駒らしさの読み解き】** 生駒らしさを感じましょう
パターンで示した生駒らしい景観の特徴を読みといています。

※関連する事項、よもやま話などはコラムで掲載しています。

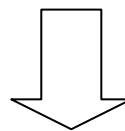


← **【生駒らしさをつくるために大切なこと】** これだけは守りましょう

← 前述した生駒らしい景観を守り、育て、つくっていくために必要となる考え方を書いています。

この考え方に沿って、各主体で景観形成に取り組んでいくことが求められます。

← このパターンと関連する別のパターンをリンク形式で示しています。(この部分の解説は後述)



← **【生駒らしさをつくる設計・計画の工夫】** こんなことやってみましょう

← パターンに基づき、事業者や設計者の方々を中心に、建物や計画を考える際に参考となるヒントや事例がある場合は、それらを掲載しています。

【こんな使い方ができます】

○「生駒らしい」良い景観をつくっていく上では、市民の皆さんの日頃の活動がとても大切です。パターンの中には、市民の皆さんの活動やちょっとした工夫も紹介されていますので、ヒントにしてみたいかでしょうか？

○パターンをもとに、自分の家をもっと素敵なものにするために設計者・施工者さんにも提案してみたいかでしょうか。

※景観アドバイザーの方々に、生駒らしい住まいをつくるために必要なことを相談してみるのも良いですね。

○パターンをもとにして、どう開発・設計に反映できるのか、具体的な方法を考えるプロセスが、生駒らしい景観の形成にとっても重要です。ぜひ、取り組んでみませんか？

○このパターンを題材にした意見交換や現地見学などを行い、生駒らしい良い景観への素養を高めていくことも期待されます。ぜひとも取り組んでみませんか？

※景観アドバイザーの方々に、生駒らしい景観をつくるために必要なことを相談してみるのも良いですね。

パターンは、相互がつながってランゲージ（言語）になります

それぞれのパターンは、他のパターンを構成する一部になっていたり、他のパターンがいくつか組み合わさって構成されていたりなど、相互に関連性を持っています。これらの関連をリンクとして示しています。関連するパターンのページを開いて頂ければ、さらに情報が得られる形となっています。また、パターン相互の関連性が分かる図表を参考に作成しています。

最終的には「パターン」を個々の要素（単語）として、パターン同士の関連性（文法）をもとに有機的に組み合わせた「ランゲージ」（言語）によって、生駒の景観の特徴や、それを生み出すデザインの考え方を表現していくことをめざしています。

本章においては、「パターン」を組み合わせながらデザインを考えるプロセスの例を示しています。それも参考にしながら、「パターン」を組み合わせて、生駒の景観を語るあなたなりの「ランゲージ」を見つけ出してもらえればと思います。

パターンは、随時追加しながら、成長させていきます

ここに示しているパターンが「生駒らしい」良い景観の全てを表現しているわけではありません。他にもパターンを見つけていくことができるでしょう、また、景観は時代やまちづくりの進展によって随時変わっていくため、パターン自身も変化することも考えられます。

そのため、パターンはこれで完成品ではなく、随時、市民や事業者の皆さんのご意見なども取り入れながら成長、充実させていくものです。

この計画をもとに、ぜひあなたも一緒に「生駒らしさ」について考えて頂き、「こんな生駒らしさがあるよね」といったことを教えて頂ければと思います。

【こんな使い方ができます】

- 具体的な設計などのプロセスを通じて生駒らしさについて気づかれた点などがあれば、ご自身でそのパターンを考えてみてください。
- 計画の見直しに際して、パターンの追加・充実も考えていきます。

【パターンの一覧】

それぞれのパターンは、概ね、景観を捉える時の空間スケールの大きいものから順に並べています。これらの中から場所の特性にふさわしいパターンを選定し、基本原則に沿って組み合わせ、それぞれの場所に応じた生駒らしい景観づくりを進めていくものです。

表 生駒らしい景観パターン

パターン	景観の構成原理				暮らしの営み
	地勢	地域性		境界の空気	
		歴史文化の文脈	市街地開発の文脈		
1 生駒山への意識	○	○	○		
2 屋根並みに浮かぶ緑の島・帯	○	○	○		
3 ヤマ・ムラ・ノラの層構造		○			○
4 見わたす眺望	○		○		
5 見通す眺望	○				
6 緑に溶け込む建物	○		○		
7 緑のエッジ	○				
8 生駒山の修験の領域	○	○			
9 顔となる空間			○	○	
10 人が交わる場所		○	○	○	○
11 曲がった道	○				○
12 坂道の見上げと見下ろし	○				○
13 通りのプロポーション			○	○	
14 連歌式			○	○	
15 高低差の尊重	○				○
16 商いのコミュニケーション				○	○
17 すっきり感				○	
18 暮らしのにじみ出し				○	○
19 なりわいがつくる風景		○			○
20 聖なる場（パワースポット）		○			○
21 アクションできる余地					○
22 人の尺度		○		○	○
23 期待感		○		○	
24 表出する緑			○		
25 どこでも緑			○		
26 しきりとつなぎ		○	○	○	○
27 受け継がれてきたデザイン		○			○
28 生駒石		○			
29 仮設の風景					○
30 移ろいの風景					○
31 記憶の風景					○

【パターンの関係性についての表】

パターンが相互にどう関連しているのかを示しています。

(それぞれのパターンでは関連するパターンもリンク形式で示しています)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31				
パターン ※注: 左側の項目に沿って行方向(横方向)に参照する	生駒山への意識	屋根並みに浮かぶ緑の島・帯	ヤマ・ムラ・ノラの層構造	見わたす眺望	見通す眺望	緑に溶け込む建物	緑のエッジ	生駒山の修験の領域	顔となる空間	人が交わる場所	曲がった道	坂道の見上げと見下ろし	通りのプロポーション	連歌式	高低差の尊重	商いのコミュニケーション	すっきり感	暮らしのにじみ出し	なりわいがつくる風景	聖なる場(パワースポット)	アクションできる余地	人の尺度	期待感	表出する緑	どこでも緑	しきりとつなぎ	受け継がれてきたデザイン	生駒石	仮設の風景	移ろいの風景	記憶の風景				
1 生駒山への意識								○																											
2 屋根並みに浮かぶ緑の島・帯				○																			○												
3 ヤマ・ムラ・ノラの層構造					○														○								○								
4 見わたす眺望		○				○						○																							
5 見通す眺望	○		○				○					○	○																						
6 緑に溶け込む建物	○						○																												
7 緑のエッジ			○		○																														
8 生駒山の修験の領域																				○															
9 顔となる空間									○					○			○				○														
10 人が交わる場所									○							○					○														
11 曲がった道										○												○													
12 坂道の見上げと見下ろし																						○													
13 通りのプロポーション					○						○			○								○													
14 連歌式									○				○								○		○												
15 高低差の尊重									○												○		○												
16 商いのコミュニケーション									○							○					○		○												
17 すっきり感									○	○				○								○													
18 暮らしのにじみ出し																				○	○						○								
19 なりわいがつくる風景			○																																
20 聖なる場(パワースポット)								○																										○	
21 アクションできる余地										○														○		○									○
22 人の尺度											○	○										○													
23 期待感								○			○	○			○					○															
24 表出する緑														○	○							○													
25 どこでも緑																			○		○			○											
26 しきりとつなぎ																								○		○									
27 受け継がれてきたデザイン											○											○					○								
28 生駒石												○			○							○					○								
29 仮設の風景																○							○										○	○	
30 移ろいの風景																																	○	○	
31 記憶の風景	○								○		○		○							○	○	○												○	

生駒山への意識

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



矢田丘陵の上から望む生駒山のすがた



河内名所図会に描かれた生駒山と往馬大社



生駒山をご神体として建つ往馬大社

生駒山はその美しい山の姿から、生駒谷の象徴（シンボル）として常に人々に意識される存在であり、生駒谷のどこからでも眺めることができます。

生駒谷から見る生駒山は、独立峰のように際だった山の形から象徴性を際立たせており、市民や訪れる人々にとっての目印（ランドマーク）になっています。

この象徴的な山の姿に敬意や怖れを抱き、ご神体として奉った神社が往馬大社であり、

山頂からちょうど真東の方角に位置しています。このことは、古来より生駒山が意識され、生駒谷の空間が形づくられていたことを裏付けています。

コラム：見る方向によって、印象が異なる生駒山

生駒山は生駒谷側からは山と谷の距離が近いことから、独立した美しい峰として「そびえたつ」ように見えます。

ところが、大阪側から見る時は印象が異なり、独立した峰というよりはなだらかな緑の帯状に見えます。

等高線を見ると、生駒山系は全体として標高 350～450m程度のなだらかな山なみを形づくっていますが、生駒市側に標高 550m以上の山頂部が突き出した形になっており、峰のような見え方をするのではないのでしょうか。



生駒谷側から見た生駒山



大阪側から見た生駒山地

* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

○生駒山が見える場所では、その方向を意識して道路や街区、公園などの施設を計画しましょう。例えば、生駒山がよく見える場所に公園を配置したり、道路の線形を生駒山へあてたり（山あて）するような計画を考えましょう。



生駒山を意識して道路を計画する

関連する
パターン

・ 8 生駒山の修験の領域

こちらも参照してください

コラム：「山あて」でできている住宅地

かつては、生駒山からの風（生駒おろし）が強いため、住宅の立地は生駒山の東向き斜面が中心だったそうですが、東生駒駅の設置と合わせて、周辺の矢田丘陵の西向き斜面での住宅地開発が進められました。

その際、「生駒山への眺望があること」が特徴となり、現在でも東生駒やさつき台の住宅地は、東西方向の道路から生駒山が良く眺められます。



東生駒



さつき台

屋根並みに浮かぶ緑の島・帯

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



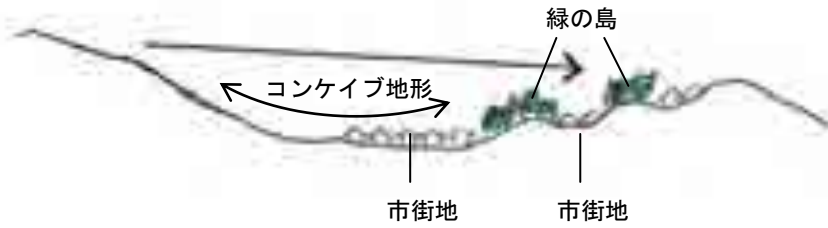
屋根並みに浮かぶように見える緑の島



敷地や街路樹の緑が帯城に連なる



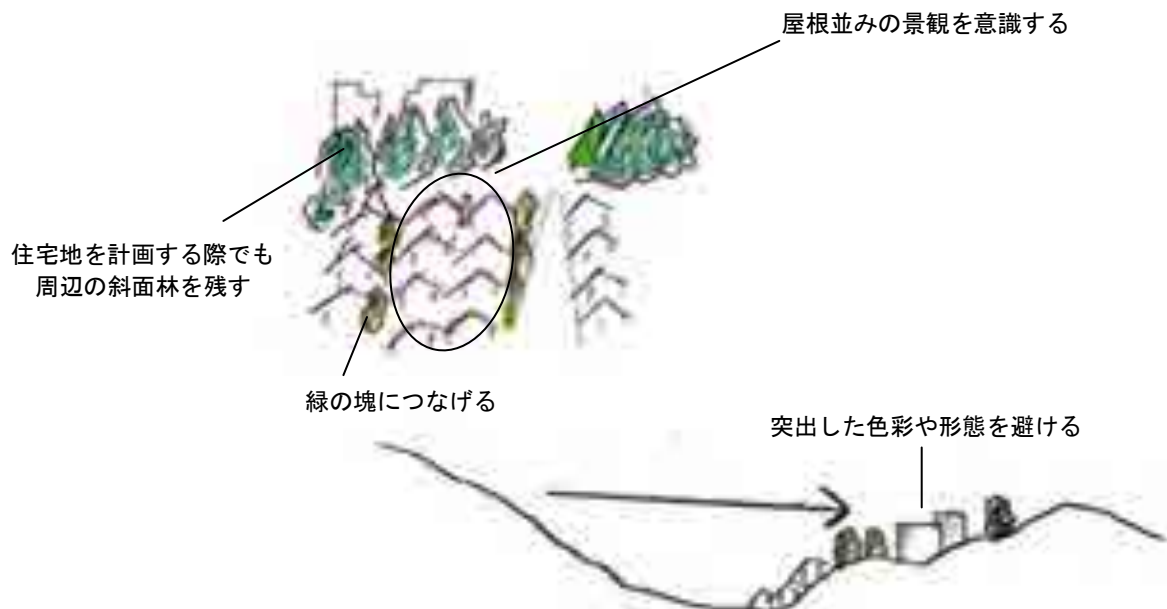
高台から眺めると、山や丘陵の緑を背景としながら、斜面地に残る緑や集落のモリが緑の島として市街地の海の中に浮き上がるような形で認識され、また、住宅地の街路樹や敷地内の植栽が带状に連なって見え、非常に印象深いものとなっています。



* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

- 高台から見下ろしたときに緑の島として認識される斜面地の緑や市街地内の緑の塊は、たとえ少量であっても大切にし、保全しましょう。
- 開発などによって損なわれることのないよう、緑化などによりできる限り復元しましょう。
- 緑の帯としての連なりを意識し、緑の配置を揃えましょう。
- 公園などの公共空間から見下ろされる場所では、建物は周囲にある緑の島になじむようにデザインしましょう。



関連する
パターン

こちらも参照してください

- ・ 4 見わたす眺望
- ・ 24 表出する緑

ヤマ・ムラ・ノラの層構造

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



ヤマ・ムラ・ノラで構成される農の風景

昔から人々の暮らしを支えてきたなりわいの場である農地（ノラ）は平地に広がり、また斜面に沿うようにつくられ、里山や奥山（ヤマ）、居住空間（ムラ）の三層が調和して、農の風景をつくっています。

「ヤマ」はムラを背後から包み込み、自然の恵み・うるおいと、背景としての安定感を与えています。

「ムラ」は建物が寄せ合って位置しており、ヤマと同じ勾配の屋根が使われていたり、昔ながらの緑や土となじむ色彩の自然素材が多用されていたりと、ヤマやノラと調和した配置・形態・意匠が使われています。

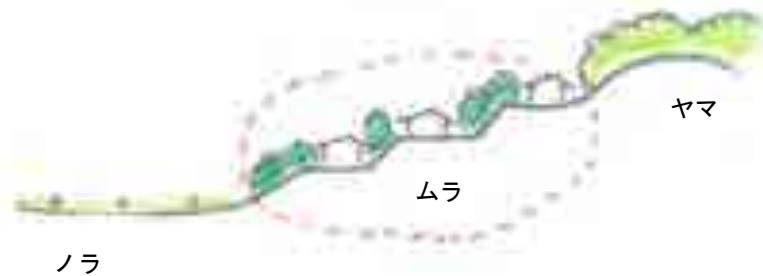


「ノラ」は水が流れやすいように低地に位置しており、ムラからその様子が一望できるようになっています。農地はのびやかな空間の広がりを生み、また季節によってその表情を変える、農の営みが目に見えて感じられる場所です。

コラム：自然に寄り添った生活の知恵

農地（ノラ）は水が流れやすいように低地に、居住空間（ムラ）は洪水などの災害を避けるために低地の周りの少し高いところに位置しました。また、里山（ヤマ）は、村里に近くて里人が生活に欠かせない薪や炭を取っていた場所でもありました。

こうした自然に寄り添った生活の知恵が、農の空間構成をつくり、今でもなお生き続けています。



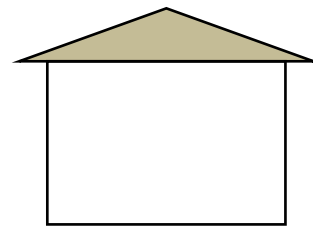
コラム：生駒の屋根の特徴

市内で家づくりに長く携わる大工さんに生駒の屋根の特徴を聞くと、「おおむね4寸（22度弱）から4寸5分（24度）勾配が標準」だそうです。

これは周りのヤマの緩やかな勾配とおおむね一致しており、安定感のある形態に見え、景観に最もなじみやすい形態です。

まわりの環境にあわせた家のデザインが、自然と採り入れられてきたんですね。

4寸（22度弱）



* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

- ヤマ、ムラ、ノラという三層の空間の構成を大切にし、それぞれの景観としてのまとまりを損ねないようにしましょう。
- ヤマは、背景の緑として保全しましょう。もし、損なうことがあったら、できる限り復元しましょう。
- ムラは、建物同士をできるだけ寄せて配置するとともに、背景のヤマの緑やノラの農地に溶け込むような素材・色彩を採用する、ヤマの勾配とあわせた勾配屋根を採り入れる、などの配慮を行いましょう。
- 三層が良く眺められる道沿いに、眺望を遮るようなものを置く・建てることは避けましょう。



関連する
パターン

こちらも参照してください

- ・ 5 見通す眺望
- ・ 19 なりわいがつくる風景
- ・ 27 受け継がれてきたデザイン

【生駒らしさをつくる設計・計画の工夫】 こんなことやってみましょう

ヤマ・ムラ・ノラの三層構造を尊重した計画にしてみませんか。

○昔から、集落は土地の高低差や水の流れなどの土地の条件を読み込んで、それに順応した形で家屋を建ててきました。

○全く同じ状態に復元することは難しくても、その土地にある条件を理解し、計画の中で活かしていくことが大切です。

【建物の配置】



【建物の意匠】



見わたす眺望

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



雄大な地形を感じさせる眺望

生駒の市街地は、竜田川や富雄川などの河川を中心に、山と丘陵に囲まれた谷筋に形成されています。このため、高台から眺めると、谷筋の凹型（コンケイブ）地形に沿って建物の屋根越しに市街地や集落を見渡す、胸のすくような眺望が広がります。

高低差のある地形の多い生駒では、地形の構造を感じさせる雄大な見わたす眺望、市街地を俯瞰できる清々しい眺望に思いがけず出会うことがあり、生駒ならではの楽しみとすることができます。

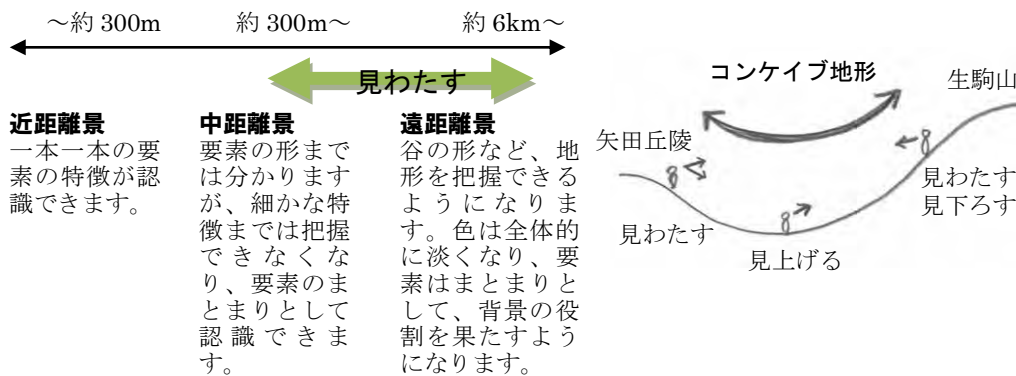
コラム：生駒の豊かな眺望

眺望は、概ね数百メートルから数キロメートルくらいの距離にあるものを眺めた時に得られる景色です。見わたすほかに、見上げる（仰瞰）、見下ろす（俯瞰）、見通すなどのタイプがあります。

生駒谷は凹型（コンケイブ）の地形なので、どこから見るかによって見えるものが大きく異なり、多様な眺望を楽しむことができます。

例えば矢田丘陵からは、生駒山の姿を仰ぐことができ、また竜田川沿いの市街地を見わたすことができます。生駒山の山麓からは、生駒谷のみならず奈良の方向を広く見わたすことができます。

普段の生活から、生駒の豊かな表情を少しでも意識してみませんか。



樋口忠彦「景観の構造」

* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

- 見わたす眺望が得られる場所を大切に守りましょう。高い場所からの眺望を建物が障害してしまわないように気をつけましょう。
- 住宅団地の開発などにより公園を計画する時には、見わたす眺望を堪能するのに最も適した場所を考えましょう。
- 眺望をいろんな人が楽しめるような配慮や工夫を採り入れましょう。
多くの人が集まる公共性の高い場所や多くの人が行き来する道などで見晴らしが得られる場合には、特定の敷地のみが見晴らしを独占することのないように開放しましょう。



見わたす眺望を楽しめる四季の森公園
生駒山への眺望を確保するために
その方向には樹木を置いていない



眺望点を生み出す
建築においても眺望を
楽しめる場所を作る

コラム：日本庭園に学ぶ、眺望をいかす作法

日本庭園は、借景（周りの風景を取り込み、庭に活かす）の手法を用いて、周辺への眺望をたくみに庭造りに活かしてきました。

京都の圓通寺は、建物からの眺めがフレーム（額縁）のように収められており、あたかも絵画のような演出がなされています。こうした演出を「いけどり（フレーム）効果」と呼ぶこともあります。

また、比叡山への眺望を活かし、その他によけいなものが視界に入らないように、視界の前面にうまく庭木を配置しています。こうした演出を「見切り」といいます。

こうした技法を生駒の景観形成にも採り入れ、魅力的な眺望をまもり、つくっていきましょう。



フレーム（額縁）のようないけどられた
眺望



手前に植栽を配して、下のほうの視界を
さえぎり、比叡山への眺望を切り取る

関連する
パターン

こちらも参照して
ください

- ・ 2 屋根並みに浮かぶ緑の島・帯
- ・ 6 緑に溶け込む建物
- ・ 1 2 坂道の見上げと見下ろし

コラム：眺望点

生駒谷では、見わたす眺望が楽しめる、誰でも入ることができる公共的な場所があります。

下の図におすすめスポットを載せておきますが、この他にもたくさんあるので、みなさんもお気に入りの場所を見つけてくださいね！



宝山寺付近

生駒の市街地や矢田丘陵、奈良方面を望む

歓喜の湯 足湯

正面に生駒山が、眼下に市街地が広がる

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



富雄川の見通し



幹線道路の見通し



線路上の見通し



住宅地内の道路の見通し

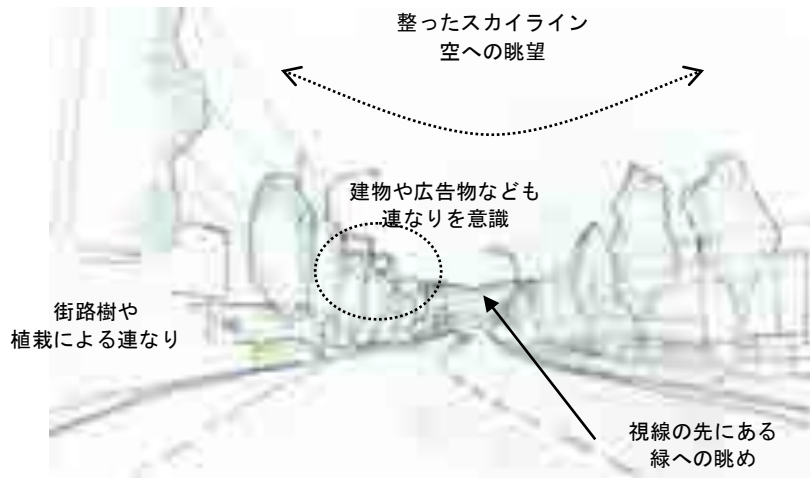
線状に連なる道路・線路・河川に沿って、広がりのある軸線状の眺望が得られます。街路樹や建物の屋根並み、植栽などが連なり、視線を奥の方へと導きます。計画的に開発された市街地などでは、視線の先に生駒山や丘陵の緑を見通せる通りがあり、緑豊かなまちであるという印象を高めています。また、通り沿いの建物を作る輪郭の線（スカイライン）が整うことで、空が開けて見え、気持ちの良い眺望が得られます。

特に、生駒の市街地は、大きく竜田川と富雄川を中心とする二つの谷筋でつくられていることから、谷筋に沿った南北方向には、道路・河川沿い、橋の上などから遠くまで広々と見通せる伸びやかな眺めが得られます。

* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

- 周りから突出した規模・形態とするなど、通りの連なりや軸の眺望、スカイラインをできるだけ妨げないようにしましょう。
- 通りが連なって見えるように、隣接する建物との調和や、植栽による連続性の演出などを採り入れましょう。
- 通りの先に山などの緑が見える場合は、周辺から突出して眺望を遮らないようにしましょう。
- 特に、谷筋の道路・河川がつくるお椀の底型の広がりある地形、空間の眺めを大切にしましょう。



関連する
パターン

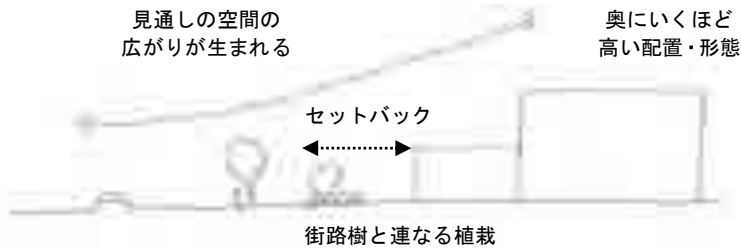
こちらも参照して
ください

- ・ 1 生駒山への意識
- ・ 3 ヤマ・ムラ・ノラの層構造
- ・ 7 緑のエッジ
- ・ 12 坂道の見上げと見下ろし
- ・ 13 通りのプロポーショナル

【生駒らしさをつくる設計・計画の工夫】 こんなことやってみましょう

通りとの関係を意識した工夫を考えましょう。

- 通りに沿ったスカイラインの連続性を生み出すよう努めましょう。
- 建物の高さは、通り沿いはできるだけ抑えることで、見通す眺望の広がりある空間が得られ、逆に高くなると圧迫感を増し、見通しを妨げます。通りから敷地の奥にいくほど高くなるよう配置や形態を工夫しましょう。



川との関係を意識した工夫を考えましょう。

- 建物が河川に背中を向けるようにして立ち並ぶと、殺風景な印象の水辺になってしまいます。河川の方を意識して緑を配置するなどの工夫をしましょう。
- 河川の近くで建物を計画する際には、緑のエッジへの視線を確保できる程度に、地形から突出しない大きさ・高さとしましょう。なるべく山側に寄せて配置しましょう。
- 河川空間との「つなぎ役」を果たすように、敷地の際や建物の手前に植栽を施しましょう。
- 河川空間は緑豊かに保ち市街地や農地の空間との連続性を生み出すよう努めましょう。



自然素材（石積）の使用



堤防が芝で覆われ、河川と市街地とが視覚的につながっている



建物や植栽から突出しない高さ、色彩の看板

河川との間に植栽の配置や天然石の設置

河川の方

コラム：魅力的な河川であり続けるために

河川の空間とその周りの建物や丘陵の緑が一体となって魅力を発揮するためには、河川が美しく表情豊かである必要があります。近所に住んでいる人たちと一緒に、河川のお手入れをして、魅力的な川を育みませんか。

取り組みを応援する、「地域が育む川づくり事業（県）」も活用できます。



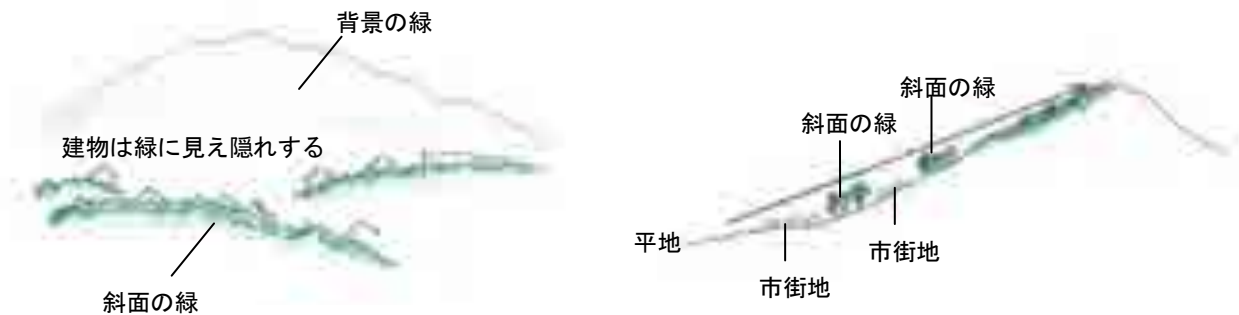
地域が育む川づくり事業を活用して住民が河川の手入れをしている場所（富雄川）

緑にとけ込む建物

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



緑の中に溶け込む建物



谷底の平地から見ると、斜面の樹木・樹林があたかも「緑の帯」のように市街地を覆い隠し、背景の生駒山や矢田丘陵、西の京丘陵の緑とあいまって、あたかも「緑の中に市街地がとけ込んでいる」ように見えます。

この眺めが、「緑につつまれたまち生駒」を強く印象付けています。

コラム：「見え隠れ」の美学

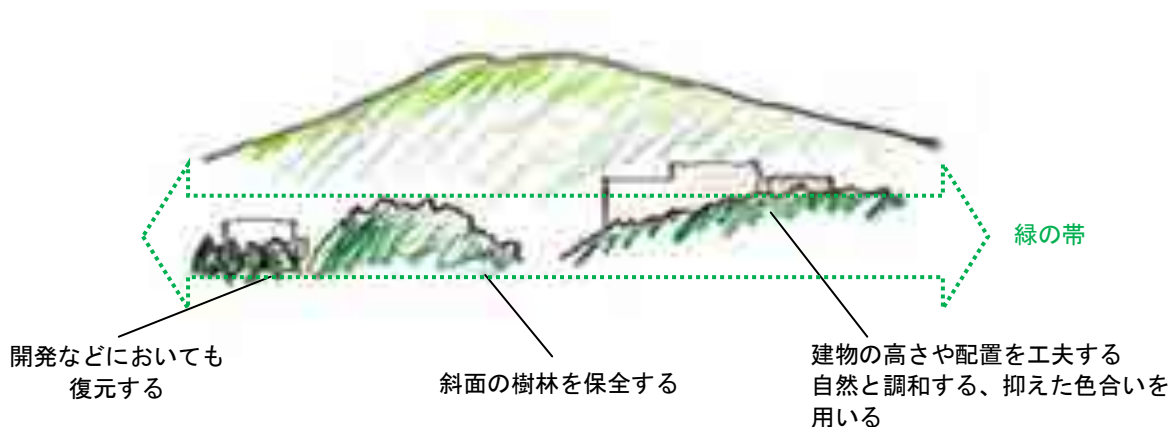
緑のなかに溶け込み垣間見える建物は、視点が動くにつれてはっきりと見えたり緑の後ろに隠れたりします。このような状態を「見え隠れ」と言います。また、日本では古来より物陰からちらりと見えたり、薄暗いなかにほのかに見えたりするところに美を見出す、独特の感覚が受け継がれていると言われています。

緑につつまれた生駒のまちには、私たちの心に訴える「見え隠れ」の美学が息づいていると言えるのではないのでしょうか。

* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

- 谷底から見上げた時に見える斜面の樹林は、緑の帯として、たとえ少量であっても大切にし、保全しましょう。
- 緑の帯が損なわれることのないよう、開発などの際にあっても緑化などによりできる限り復元しましょう。
- 竜田川と富雄川の二つの流域がつくる谷底からは、どこでも背景の緑が見えることを意識し、緑にとけ込むように、建物の高さや配置を工夫する、緑となじむ色彩や材料を使う、前面に植栽を厚く配置するなどしましょう。



関連する パターン

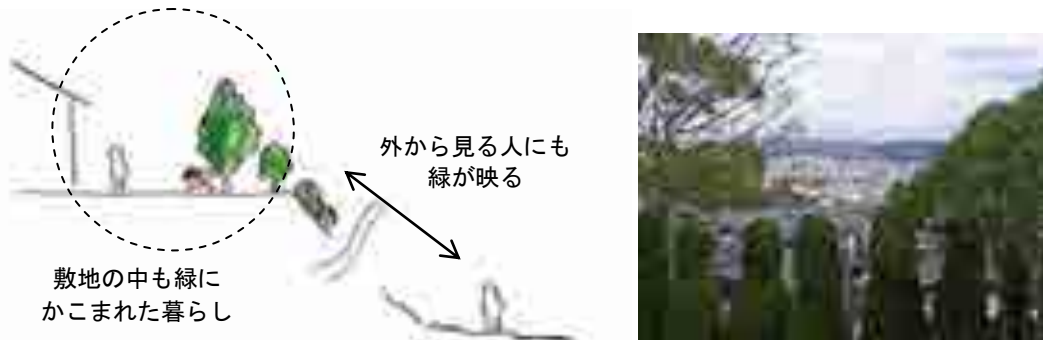
こちらも参照してください

- ・ 1 生駒山への意識
- ・ 7 緑のエッジ

コラム：緑につつまれた暮らし

敷地のなかで植栽するときは、斜面の谷の方にできるだけたくさん樹木を植えたり、生け垣にしてみましょう。

見晴らしのよい場所は逆に周りからもよく見えます。下から見られていることも意識しながら、緑につつまれた暮らしを楽しみましょう。



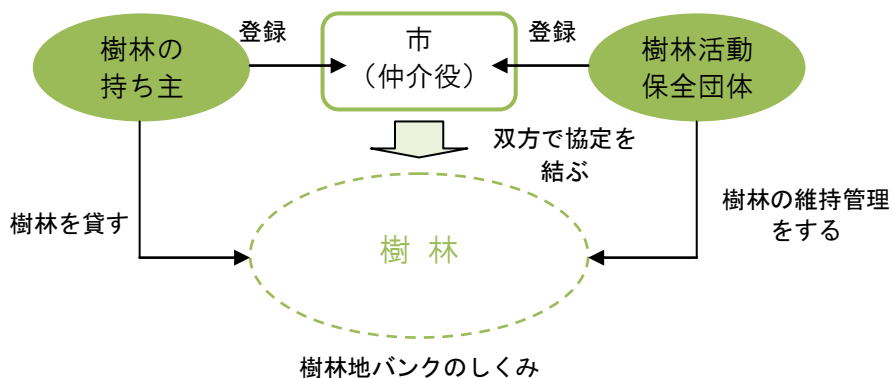
コラム：樹林地を「みんなで」育む方法

地域のみんなや、自然が好きな市民活動団体などが手助けしてくれる、そんなしくみもあります。



<活動紹介：鹿ノ台自治連合会「ECOKA委員会」>

近年の住環境への住民意識の高まりとともに、量的な緑環境より緑地全体の質的向上を実現するため、平成20年に「ECOKA委員会」を設立、住宅地の周りに12箇所ある保存緑地（12ha）の森の再生に向け、協働・連携のもとで計画的に整備（下草刈、間伐、植樹）しています。



【生駒らしさをつくる設計・計画の工夫】 こんなことやってみましょう

緑の帯を損なう開発は最小限に。いろんな工夫を取り入れて。

○既存の樹林地はできるだけ残しましょう。それも、できるだけ谷側の樹林地を残すことが、緑の帯をつくるポイントです。緑視率（みどりの見える割合）を意識して、谷側から見てできるだけこの率が高くなるような工夫を考えてみましょう。

○屋根の形状や、建物の配置の仕方、デザインの仕方でも、緑とのとけ込み方が変わってきます。

【樹林地の保全】



【建物の配置】



【屋根の形状】



【緑化】



【色彩】

緑になじむ色彩



緑が映える色彩

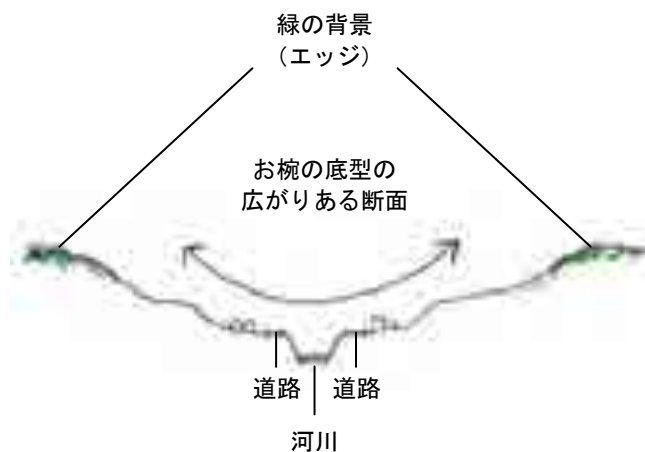


【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



富雄川沿いの緑のエッジ

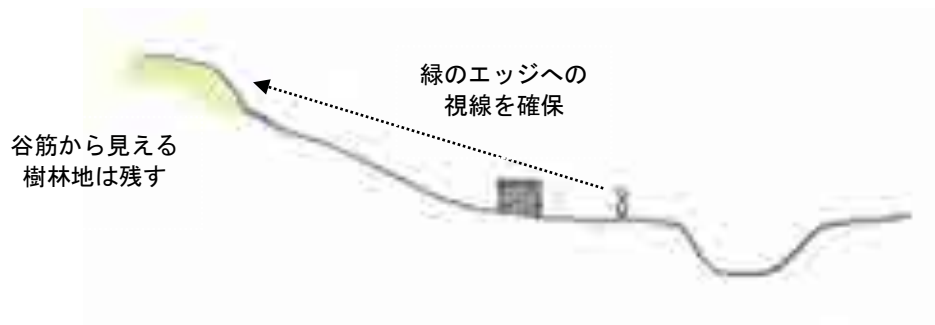
竜田川・富雄川の谷筋は、河川の水面とあわせて視界の両端に緑のエッジが背景として映り、緑が豊かな景観の印象をぐっと高めています。集落もこの緑のエッジにとけ込むような形で位置しています。



* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

- 谷筋の河川・道路沿いから、緑の背景（エッジ）が連なって見えるように、谷筋の緑を保全しましょう。
- 開発の際でも緑のエッジをできるだけ残し、開発地が谷筋から露出しないようにしましょう。



関連する
パターン

こちらも参照してください

- ・ 3 ヤマ・ムラ・ノラの層構造
- ・ 5 見通す眺望

【生駒らしさをつくる設計・計画の工夫】 こんなことやってみましょう

谷筋からの見え方を意識し、緑のエッジを残しましょう

- ニュータウンなどの面的な宅地造成では、地区内の住宅から緑豊かな眺めを得られるよう、周辺の緑を保全することが意識されますが、地区外から見た時の見え方は案外意識されない場合もあります。
- 建物が露出すると、「高いところから見下ろされている」「緑がなくなった」という印象が強くなってしまいます。緑のエッジは保全した開発を考えましょう。



生駒山の修験の領域

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう

生駒山は、古くから修験の空間として知られてきた場所です。



標高が概ね 350m 以上の山頂に近い場所は、古来より修験者の修行の場となってきました。

標高が概ね 150～350m の場所には、宝山寺から平群の千光寺にかけて多くの寺院が分布し、修験者が山駆けを行う修験の道「庄兵エ（しょうべえ）道」が江戸時代に開かれました。

これらの場所では、今でも宝山寺をはじめとして数々の寺院が、奥深い生駒山の木立に抱かれて位置しています。

こうした修験の場は、人気もなく、巨木がそびえ立つ暗がりの中に石・岩が露出した、訪れた者に畏怖心を抱かせる雰囲気醸し出しており、今日でも祈祷師などが籠る修験の場として知られている場所です。



修験の場

これらは、生駒谷の低い斜面地から谷底にかけて分布する、日常生活を送る空間とは対照的に、静かで、人を寄せ付けぬ厳かな雰囲気を持つ空間となっています。



宝山寺へと続く山道

コラム：生駒と役行者の伝説

生駒山の山頂から中腹にかけて存在している、宝山寺、教弘寺、鶴林寺などの寺院は、^{えんのぎょうじゆ}役行者を開基としています。

役行者は、吉野の大峯山や金峯山などの山上山を開いたとされる人物です。これらの山上山を開く前に、この往馬山系の千光寺を足がかりにして宝山寺の般若窟や鬼鳥の般若岩屋で修行をして霊力を体得したと伝えられています。

修験者が駆け巡って修業したとされる、行者道「庄兵卫道」の存在が伝えられており、この道の周りでは役行者伝説が多数伝えられています。



役行者伝説の分布
(『生駒谷の祭りと伝承』桜井満、伊藤高雄編)

* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

- 生駒山の修験の空間があることを認識し、その領域を侵さないようにしましょう。樹木を伐採し開放的な空間を作る、建物を建て生活感が表に出るような行為などは避け、静かで、人を寄せ付けぬ厳かな雰囲気たたくまいを継承しましょう。
- 修験の足跡を今に伝える要素（昔からの道や道標など）を大切に守りましょう。

関連する
パターン

こちらも参照してください

・ 20 聖なる場（パワースポット）

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



生駒の玄関口である生駒駅前



白庭台駅前でも同様に、シンボルツリーや植栽が中心に配されています



東生駒の住宅地の入り口にあるロータリーは、花で彩られています

駅前には、多くの人々が行き交う、にぎわいのある空間で、生駒でも、モニュメントやシンボルツリーを配したり、周辺の建物と駅舎とのデザインを合わせたりなど、印象を高めるための工夫がいろんなところに採り入れられています。

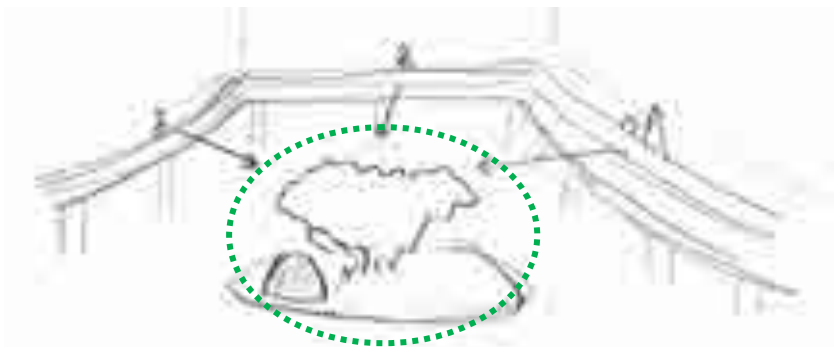
また、住宅地の入り口や、それぞれの建物の入り口（エントランス）などでも、印象を高める工夫が採り入れられています。

来訪者を迎え入れ、まちの第一印象を決める“顔”となる空間は、景観をつくる上でとても重要です。

* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

○駅前空間では、駅に降り立った人が好印象を持てるように、視線が集まる場所に目印となる樹木やモニュメントを配置するなどの工夫を採り入れましょう。



視線が集まる場所への工夫が
印象を高める

○身近な商業地、住宅地の空間においても、訪れる人が好印象を持てるように、入り口となる空間では建物のデザインを整えたり、花で演出したりといった工夫を採り入れましょう。

関連する
パターン

こちらも参照して
ください

- ・ 10 人が交わる場所
- ・ 14 連歌式
- ・ 17 すっきり感
- ・ 21 アクションできる余地

コラム：「顔」となる空間をつくるための、見えない努力

「顔」となる空間は、何となくできているように見えてしまうかも知れませんが、実はそういう「顔」となるような話し合い・調整が積み重ねられています。

当時、生駒駅の北口・南口の再開発に携わった市の担当者から、景観上配慮したことなどをうかがいました。こうした隠れた取り組みの積み重ねが、「顔」となる空間を形づくっているのですね。

●生駒駅前南口地区の再開発事業

「グリーンヒルいこま」（昭和46年）

- ・生駒山は駅からであれば丸みを帯びて見え、山というより丘陵のように目に映ります。それを意識し、スイスの切り立ったアルプス山脈というよりは、南欧の柔らかな山並みをイメージさせましたので、それを意識した南欧の雰囲気デザインの取り入れることとしました。



●生駒駅前北口第一地区の再開発事業「アントレいこま」（平成9年）

第四地区の // 「アコールいこま」（平成17年）

- ・交通広場の中央に、井上武吉さんのモニュメント「my sky hole 97 生駒」を設置しました。手のような丸みを帯びた形をしており、駅に向かって「行ってらっしゃい」「おかえり」を言っているような形になっています。
- ・第四地区は、駅周辺にあるメディカルセンターをもとにして、全体的な色合いをそろえました。
- ・北口でも生駒山を意識しており、2階部分のデッキから生駒山を望むことができるようにしています。また、山並みを意識して円弧の形状を多く取り入れたデザインとなっています。



【生駒らしさをつくる設計・計画の工夫】 こんなことやってみましょう

駅前では、全体のバランスを取りながら、印象を高める工夫を考えてみましょう。

○駅前には多くの人の視線が集まる場所です。そうした場所では好印象を与えるような工夫が求められます。

○目立つことばかりを意識しすぎると、かえって印象が悪くなってしまいます。全体のバランスも考えながら、公共施設や周りの建物、広告のデザインを考えてみましょう。



みんなの視線が集まる場所（焦点）には、ランドマーク（目印）となるシンボルツリーを配置
夜間は光で演出などすると、効果も高まります



建物の「面」を強調したデザインの例
（シンメトリー：対称性）

住宅地では、緑などを効果的に使いながら、印象を高める工夫を考えてみましょう。

○住宅地では、入り口のまちかどや、各住戸・住棟のエントランスなどにおいて、しつらえを工夫しましょう。例えば、まちかどの空きスペースを花で演出したり、住宅のエントランスに重点的に緑を配置したり、といったことが考えられます。



住宅地での工夫 花壇による演出や、エントランスのしつらえ

人が交わる場所

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



集会所や火の見櫓のある中心



街道の交わる辻には多くの機能が配置されました



交通の結節点、住宅地の入り口



まちかどの公園は辻の役割

集落では、暮らしの中から人々がよく通るところ、使うところ、溜まりやすいところなど、共同生活の中心の役目を果たす場所（辻）が自然と生まれてきました。そこには火の見櫓が置かれ、集会所や公民館があり、人々の生活を支え、また人と人が出会う場となり、ムラつながり、結束を意識させる重要な役目を担ってきました。

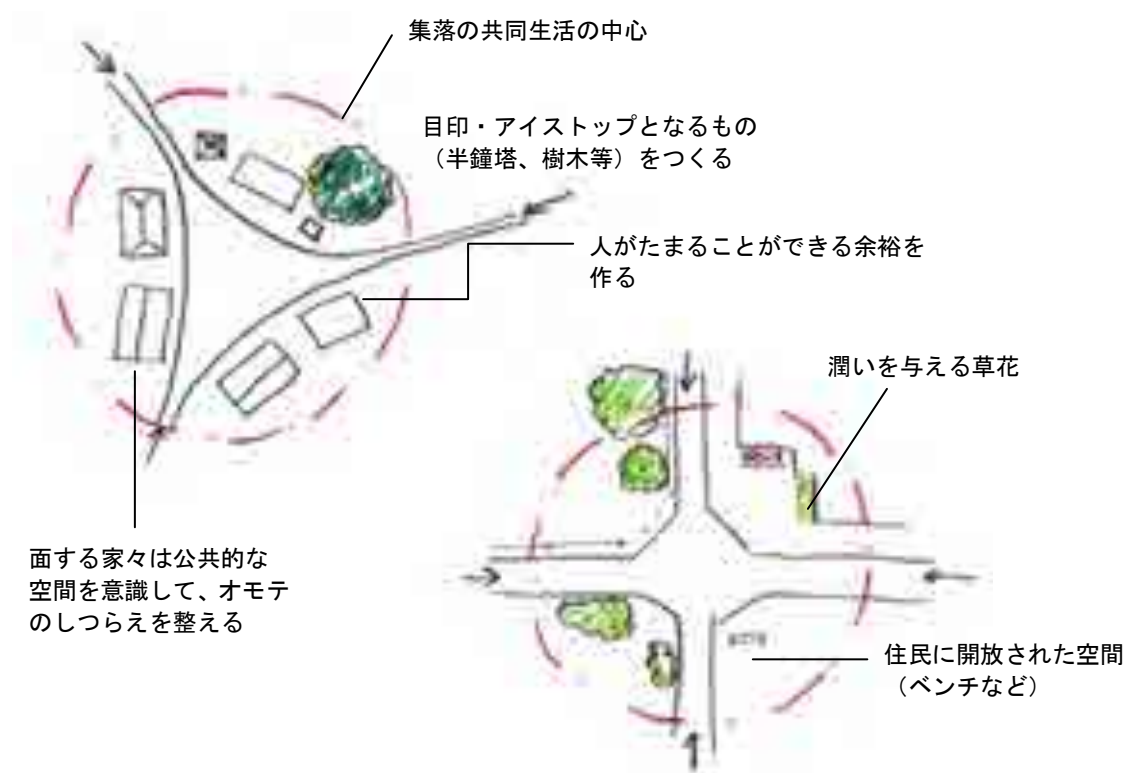
計画的に開発された住宅地でも、コミュニティのまとまりを生み出す空間が意識的にデザインされています。公園や集会所、井戸端の交流が生まれるまちかどなど、コミュニティの中心となる人が交わる空間は、形は変えながらも大切な場所として受け継がれています。

* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

○集落や住宅地の中に、生活を支える機能や交流できる機能を配置した、共同生活の中心（辻）をつくるように、敷地や建物の配置や、道路・歩道の使い方、共同施設の使い方などを考えましょう。

○辻で、いろんな人が交わり、語らい、楽しむことができるようなしかけや装置を採り入れましょう。



関連する
パターン

こちらも参照してください

- ・ 9 顔となる空間
- ・ 16 商いのコミュニケーション
- ・ 21 アクションできる余地

コラム：「辻」にまつわる言葉

「辻」とは、大辞林によれば「二つの道路が十字形に交差している所。また、四方からの道が集まりゆききする人が出会い別れる交通の要所」「人通りの多い道筋」となっています。

この「辻」がつく言葉はたくさんありますが、「辻」の持っている空間の特徴や、そこで行われていた人の活動を良く表しています。一例をご紹介します。

- ・「辻商い」「辻売り」・・・道端に店を出してする商売。
- ・「辻講釈」・・・往来や社寺の参道などで軍談などを語って聞かせ、聴衆から銭をもらうこと。また、それをする人。大道講釈。
- ・「辻堂」「辻社」・・・道の十字路などにある道祖神をまつたお堂・社。

出典：『大辞林』

コラム：集落に今も残る水汲み場

高山町の方では、集落の中を歩くと下の写真のような水汲み場に出会います。かつてはこうした水飲み場も集落が共同で管理しており、住民が水を汲みに来た時や、この水を使って洗い物をする時に、近所の人達の輪ができて、井戸端話がなされていたのかもしれませんが。

現在では水道も普及しましたので、痕跡として残っている状態ですが、自然と人が集まっていた辻の様子を想像させてくれるものです。



高山町にある水飲み場

【生駒らしさをつくる設計・計画の工夫】 こんなことやってみましょう

辻となる空間は人が集まることを意識してみましょう。

○辻は人と人が交わる空間です。人から見られることも意識して、あまり生活感が出すぎたり、ごちゃごちゃとしたりしないよう、気を配ってみましょう。



適度な目隠しや、目を楽しませる花など

辻となる空間で人が交わるしかけを考えてみましょう。

○特に大規模な建物や敷地で計画をする際には、人と人が交わる空間をどう作っていくのか、についても考えてみましょう。

○住民とのかかわり方もデザインされると、長く使ってもらえるかもしれませんね。



出会いや会話を生み出す広い歩道空間



ライトアップで演出



住民がかかわる余地を盛り込む



人が集まりやすいマンションの入り口

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



川筋に沿った、曲線の道（西菜畑町）



等高線と一致するあぜや道の曲線（高山町）



住宅地の中の曲線の道（北新町）

人為的に作られた道ではなく、自然と作られてきた道は、直線的ではなく緩やかな曲線を描いています。

大地には起伏があるので、その等高線に沿って道もおのずと曲がります。また、私たちは歩くときに、最短距離の直線では進まず、若干曲がるように進路を取るため、踏み分け道の多くも曲がっています。

曲がった道を進んでいくと、道沿いの家々に囲まれたような印象を受けることがあります。このような「閉じた」場所は、続いていく道の一部でありながら、居心地のいい落ち着いた空間となります。



踏み分け道は地形に沿って、自然と曲がっている（生駒山上周辺）



視線の先は緩やかなカーブにより閉じられ、居心地のいい空間になる（萩の台）

さらに、曲がっていることで、次の風景は先に進まないと見ることはできません。曲がった道その先に何が続くのか、期待感を抱かせるとともに、次々に風景が移り変わるシークエンス（連続させて風景が展開する）を生み出します。

曲がった道は、景観に奥行きと変化を与えるのです。

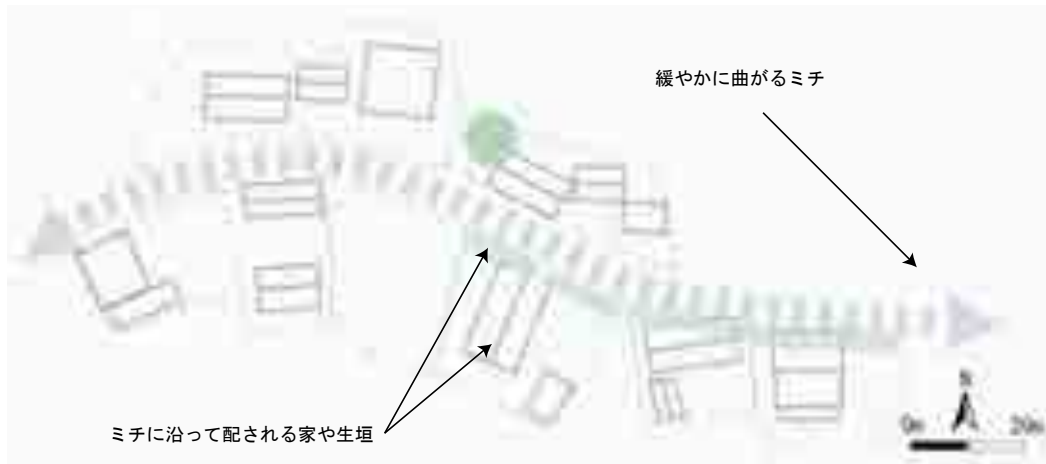


集落内の曲がった道を進むと、まちなみが次々と変化する（上 有里町、下 藤尾町）

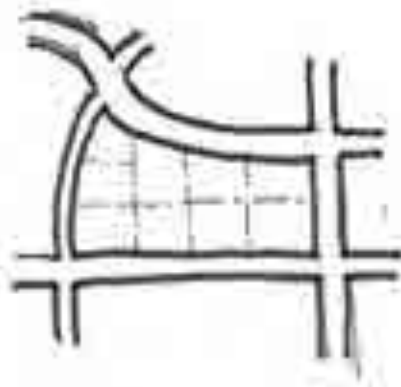
* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

○道の曲線を活かし、道の形に沿うように、緑や建物を配置しましょう。曲がった道にあわせて配置することで、まちなみの変化を印象づけることができます。



○新しく道路をつくるときには、直線的なものばかりでは空間が明快・単調になりすぎて、奥行きや変化が乏しくなります。場所によっては曲線も取り入れるような計画としましょう。



地形に沿って曲線
を採り入れた区画
道路

関連する
パターン

こちらも参照して
ください

・ 23 期待感

坂道の見上げと見下ろし

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



宝山寺参道の坂道（上り）



（下り）



住宅地の坂道（上り）



（下り）



奈良街道の坂道（上り）



（下り）

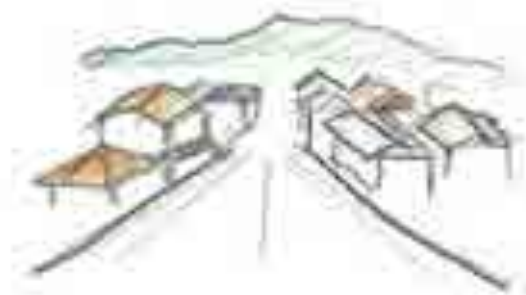
名前がつけられた坂が少ないことからわかるように、坂は身近なところにたくさん存在しています。

同じ坂でも、上から見下ろすときと下から見上げるときとは印象がかなり異なり、坂道に沿ったまち並みは見る方向によって表情が変わります。

* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

○坂の上から見下ろした時の眺望を大切にし、眺望を阻害しないような建物にしましょう。



坂の眺望に即した
屋根・壁面

○坂の下から見上げるときには、道路の舗装や沿道の擁壁の存在感が大きくなるため、威圧感を与えないような工夫をしましょう。また、目に映る緑の面積が小さくなってしまふことが多いので、緑が見えるように重点的に配置しましょう。



緑を積極的に配置

見上げた時の、
擁壁の圧迫感を減らす工夫

○坂道の上に建つ建物では、坂道から見えるところに特徴を持たせると、坂道を登る時の目標となります。

関連する
パターン

・ 22 人の尺度

こちらも参照してください

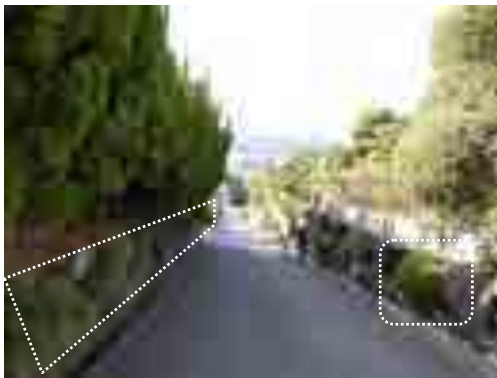
【生駒らしさをつくる設計・計画の工夫】 こんなことやってみましょう

坂の上と下からの見え方の違いを意識してデザインしましょう。

○坂の下から見上げる視線に対して、圧迫感や無機質な印象を与えたりしないようにしましょう。

○上から見下ろす視線を意識して、緑の連続性が生まれるようにしましょう。

○坂道の上に建つ建物では、坂道に面する部分に特徴を持たせると、坂道を登るときの目標となります。



石垣のところどころに植栽し、圧迫感を軽減



擁壁の前に少し、緑化のための空間を確保し
低木を配置



緑に連なりを持たせる

緑の連続感がある通り



坂道を登るときの目標になる、アクセントになるような色の屋根

通りのプロポーション

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



生駒台



本町



真弓



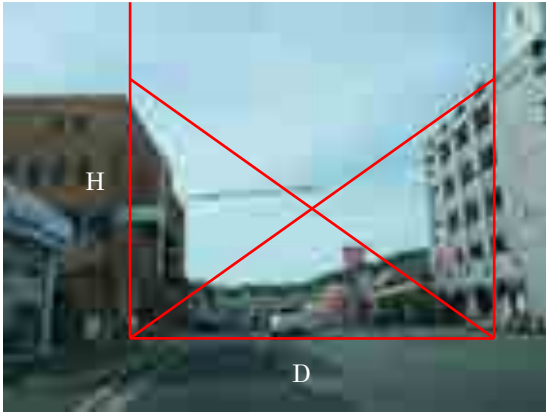
本町



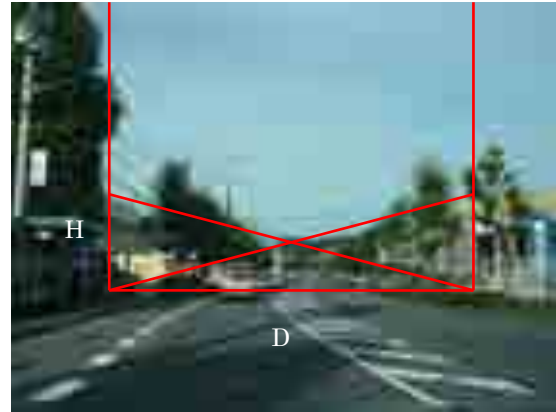
ひかりが丘



本町



高密度な幹線道路沿道
($D/H=1.5$ 程度)



低密度な幹線道路沿道
($D/H=3.5$ 程度)

通りの水平方向の広がり（D）と沿道の建物の高さ（H）の割合（プロポーション）が、通り空間の性格を決めています。

D/Hが大きくなるほど開放感ある印象が強くなりますが、大きすぎると通りとしてのまとまりを感じにくくなります。逆に小さくなるほど囲まれ感が強くなりますが、小さすぎると圧迫感を感じるようになります。

生駒の住宅地では、概ね主要な生活道路沿いのまちなみではD/Hが1.5～2.0で計画されています。

幹線道路沿道では、高密度な幹線道路沿いでは建物の面が際立っており、D/Hが1.5程度となっています。低密度な幹線道路沿いでは建物よりも沿道の街路樹の存在感が際立ち、D/Hが3.0～3.5程度となっています。特に生駒市では沿道の建物が低く、かつ道路幅員が大きく歩道・植栽空間が充実した道路が多く、D/Hが大きいゆったりで広々とした道路空間が特徴的です。

まちなかの建物の集積が高いエリアのまちなみではD/Hが1.0前後になっています。

コラム：道路の交通機能に応じた幅員

道路は、どのような交通機能をはたすかによって、概ねの幅員の目安があります。プロポーショナルを考える上で参考にしてみてください。

○地区幹線道路

- ・住宅地の周りの道路です。(都市計画道路網にあたる)
- ・交通量进行处理することと、歩行者と自動車を分けることが必要で、概ね幅員 16m前後となります。(交差点部に右折レーンを設置可能な2車線道路+歩道)

○主要生活道路

- ・交通だけでなく、多様な機能を受け持つ道路です。
- ・ある程度の交通量の自動車と歩行者・自動車が同時に利用するので、歩道が必要となり、幅員 8~12m前後となります。(片側歩道~2車線の両側歩道)

○主要区画道路

- ・主要生活道路と区画道路の中間にあたり、主に防災上のネットワークを作る道路です。
- ・消防活動が困難な区域を解消するため、幅員 6m程度が必要とされています。

○区画道路

- ・駐車車両がなければ消防車が通行でき、消防活動もできるよう、幅員 4m程度が必要とされています。

コラム：D/Hで変わるまちなみの雰囲気

下の写真は、いずれも京都のまちなみの写真ですが、道路の幅と建物の高さの関係であるD/Hによって、ずいぶん通りの印象が変わることが分かります。



建築家の芦原義信は、『街並みの美学』の中で、日本や海外のまちなみのD/Hの特徴を紹介しています。それによると、「京都の伝統的な町家と『おもて』との関係はD/H=1.3程度の心地よい広さがある」ということです。

生駒のまちなみでも、まちなみの雰囲気とあった、心地よいD/Hの関係がきっと見つけられるはず。そんな視点でまちなみを見てみてはどうでしょうか。

* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

○通りの性格に応じた通りと建物のプロポーションを考え、それに合わせて建物の高さを調整しましょう。

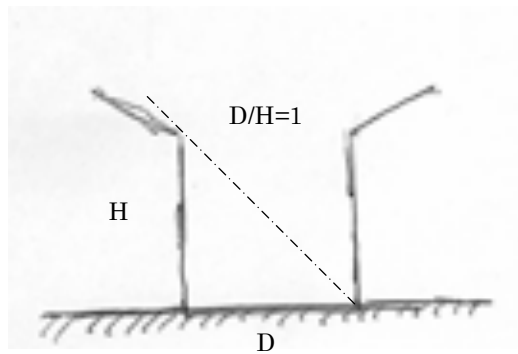
○単体の建物だけでは通りの見通し景観は生まれません。隣の建物の高さも見て、通りとしての連続性を生み出す配慮を心がけましょう。

・住宅地において、主要な生活道路沿いで D/H が1.5~2.0となるように計画し、建物の敷地計画でも配慮しましょう。

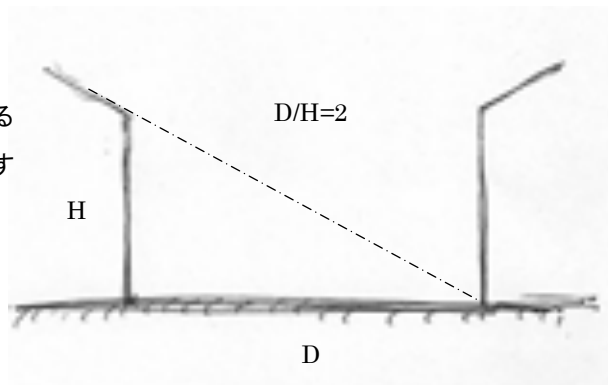
・幹線道路において、緑豊かな開放感のある通りの景観を生み出すため、 D/H を2.0~3.0程度と大きく取りましょう。

・駅周辺など建物の面が連なった通りでは、面の連続性を際立たせるため、 D/H を1.0~1.5程度と小さくしましょう。

落ち着いた感じや親密感のある通りとする場合には D/H を小さくする



開放感のある通りとする場合には D/H を大きくする



関連する
パターン

こちらも参照して
ください

- ・ 5 見通す眺望
- ・ 1 1 曲がった道
- ・ 1 4 連歌式
- ・ 2 2 人の尺度

コラム：建物の高さのルール

生駒市では、用途地域の種類によって建物の高さの上限は決められており（高度地区）、さらに、道路の幅などの敷地の条件によって高さが決まります。その他、個別の地区で制限が決められているところもあります。

現在の日本の法制度では、まちなみの連続性を考慮した高さの制限はなく、事業者の配慮によるところが大きく、難しい問題となっています。

しかし、その一方で、高さをそろえる取り組みを進めているところもあります。

埼玉県川越市では、蔵のまちなみを後世に継承していく「町づくり規範」を定めており、その中で「（建築の）高さは周囲を見て決める」というものがあります。

海外では、「新しく建設する建物の軒高は、左右に隣接する建物と調和するように一定の範囲内（隣の建物の〇%以内など）に収める」というルールもあつたりします。

こうしたルールは、地元の建物の所有者の理解と合意形成がないと導入するのは難しいのですが、建て替えなどによって変化が起こる前に、「どのくらいの高さのまちなみがふさわしいのか」を考えてみることも必要ですね。

【生駒らしさをつくる設計・計画の工夫】 こんなことやってみましょう

通りのプロポーシヨンや隣の建物にあわせて高さを決めましょう。

○どうしても、高さは敷地条件や前面道路の条件のみで決められることが多いのですが、ぜひとも通りのプロポーシヨンや、隣の建物との関係を考慮して、まちなみとして揃った姿を考えてみませんか。



中層（6階程度）でそろったまちなみ

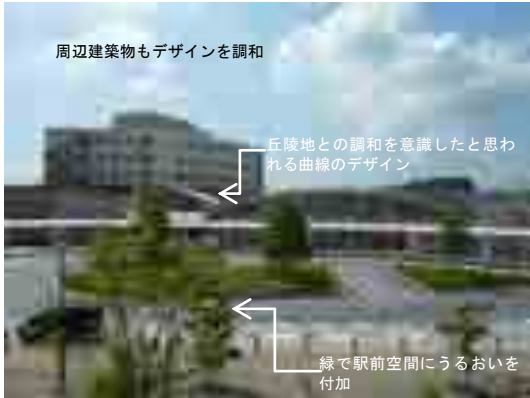


中低層（3階程度）でそろったまちなみ



背後の戸建て住宅地を阻害しない高さの幼稚園

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



白庭台駅：駅前の景観



白庭台駅：駅前の景観

白庭台住宅地の玄関口として駅舎や駅前広場が整備されました。周辺の商業施設や公共施設、共同住宅などはこれらと調和するようデザインされています。

地域内には様々なデザインの建物がありますが、どこかに共通するものがあることで景観のまとまりが生まれます。新しく計画的に整備された駅前などでは、個々の建物がそれぞれの個性を表現しながらも、地域で核となる建物と協調したデザインが採用され、多様性とまとまりのある景観となっています。

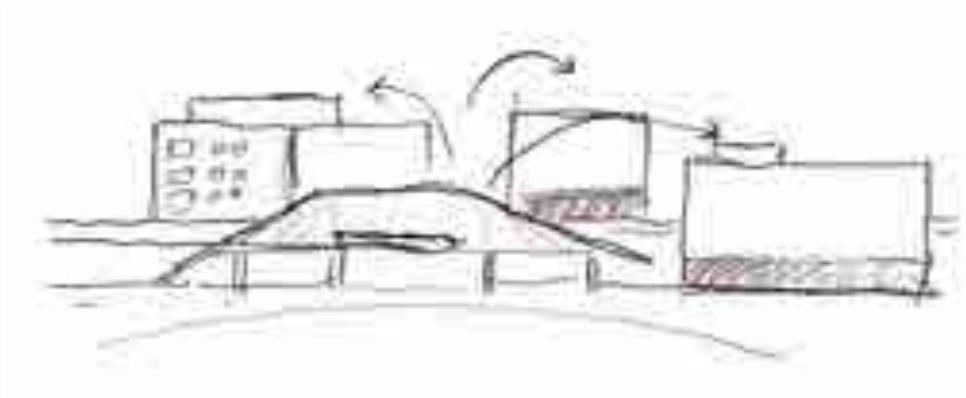
近接した建物のデザインが、連歌のように少しずつ形を変えながら順次継承・展開されていくことで、自然なまとまりと個性が生み出されています。

(連歌・・・和歌の上の句(五・七・五)と、下の句(七・七)を多数の人たちが交互に作り、ひとつの詩になるように競い合っ楽しむ文芸)

* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

- 建物は周囲にある良いデザインの建物を探し、それと調和するようにデザインしましょう。
- 地域の核となる建物のデザインの特徴を読みとり、その一部を継承したり、すでにデザインを継承した建物が近接している場合には、その建物との関連性にも配慮したデザインとしましょう。



駅舎のデザインに合わせて周辺の建物をデザインする

関連する
パターン

こちらも参照してください

- ・ 9 顔となる空間
- ・ 13 通りのプロポーション
- ・ 21 アクションできる余地
- ・ 23 期待感

【生駒らしさをつくる工夫】 こんなことやってみましょう

周りにある良いものを探してそれらと関係づけましょう。

○敷地の周りをよく見ると、地域の雰囲気をよくしているものや街並みを特徴付けているものがあるはずです。それらの要素との関係性を考えてデザインしましょう。



街路樹と同じ樹種の樹木が敷地内にも植栽され、地域の景観とのつながりを感じさせます。



劇場のデザインのイメージを周辺のマンションが継承してまとまりのある景観をつくっています。



敷地際など、視線の手前に来る場所に緑を入れると、自然と視線が集まり、背後の様子をうまく隠してくれます。

○周囲の建物と単純に同じ形態にするのではなく、継承すべき最も重要な要素を考え、それを建物のデザインに活かす工夫をすることでその場所にふさわしい個性を生み出すことができます。



全く異なる意匠や材質ですが、通りに沿って共通する屋根の勾配や高さを継承しています。

コラム：連歌方式のまちなみづくり

岩手県平泉町の中尊寺通りは JR 平泉町駅と中尊寺を結ぶ約 1.5km の県道で、歴史的にも重要な道ですが、近年、商店街の衰退が進み、景観的な魅力も乏しく、歩行者も少ない状況にありました。

そこで、国のモデル調査を活用して、「人が歩きたくなる景観」を創出するために、人が立っている場所からほど近い場所に次の景観資源が見え、「そこに行ってみよう」と思わせるような景観づくりを検討する方式を「連歌方式」として位置づけ、地域の住民と話し合いのもと、デザインコードを作成しました。



連歌方式のイメージ



修景の実寸模型

出典：平成 21 年度 地域景観づくり緊急支援事業結果報告
(国土交通省ホームページ)

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



小さな石積み等を用いながら斜面に沿って建てられた住宅

起伏の豊かな生駒では昔から、大地の高低差を取り入れ活かすようにして、家や田畑づくりが行われてきました。

地形を活かすための創意工夫をして建てられた家々は一軒一軒が個性的です。そしてそのような家々は、全体としては地形によくなじんだまちなみをつくりだします。

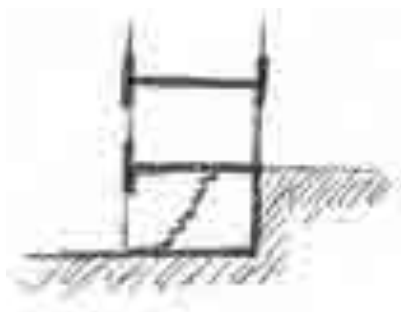
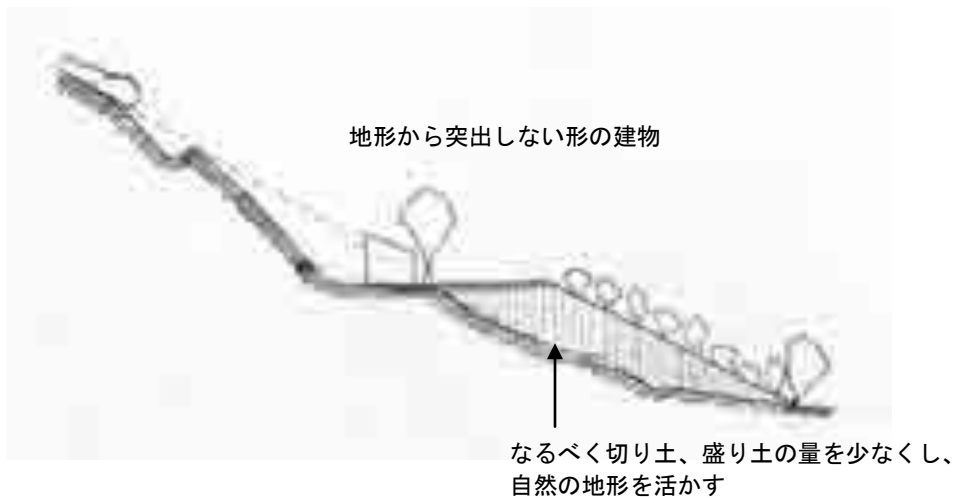


市役所は地形に沿って立地しており、出入り口も1階、2階にある

* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

○高低差のある地形は大きく改変せず、大きな切り土・盛り土は避ける、建物は周りから突出しないようにするなど、自然の地形、斜面を活かしたデザインをしましょう。



高低差を自然に取り入れた構造

関連する
パターン

・ 22 人の尺度

こちらも参照してください

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



お店が並び、人が行き交い、にぎわう商店街

昔から、商店街ではお店が道に面して商品を並べ、道行くお客さんに対してコミュニケーションを取りながら商売をしてきました。

商品を陳列したり、ポップやメッセージを掲出したり、季節感のある飾りや花で演出しながら店のイメージを伝えたりして、売り子が客と会話ややり取りをする光景が見られます。

道路と店舗の中間の領域はそうした人と人のコミュニケーションの場であり、にぎわいある景観づくりに重要な装置として機能しています。



季節感のあふれる演出（七夕）



店の外に商品を陳列しPRする店舗

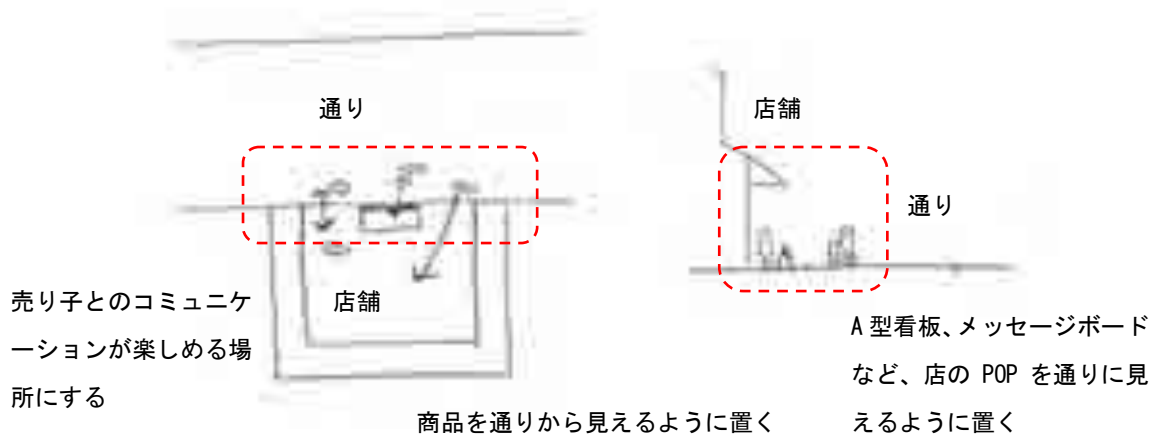


宝山寺駅前（昭和40年頃）
軒先に商品を陳列して、商売を
している様子が分かる

* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

○商店が並ぶ通りでは、商品の陳列や軒先の飾り付け、売り子のお客さんのやり取りと行ったコミュニケーションの要素が、通りに生き活きと表れてくるようなしつらえとしましょう。



○にぎわいが途絶えないようにできるだけお店が連なるようにし、内部が全く見えないなど、コミュニケーションを閉ざすようなしつらえは避けましょう。

関連する
パターン

こちらも参照して
ください

- ・ 9 顔となる空間
- ・ 21 アクションできる余地
- ・ 23 期待感
- ・ 26 しきりとつなぎ
- ・ 29 仮設の風景
- ・ 30 移ろいの風景

コラム：「店」＝「見世棚」

「店」という言葉は、商品を並べて客に見せる「見世棚」に由来するという説もあります。

お店の軒先は、お客さんとお店をつなぐ場でもあり、商店街ならではの特徴でもあります。行き交う人に楽しんでもらう、そんな見せ方ができれば、通りの景観もいきいきとしてきますね。



思わず目を奪われ、足をとめてしまいますね



100円商店街の様子
売り子と客の親密なコミュニケーション

【生駒らしさをつくる設計・計画の工夫】 こんなことやってみましょう

通りとの関係や横の連なりを考えたデザインにしましょう。

○いきいきとしたにぎわいが大事な商店街では、店と通りとの関係、店同士の横の連なりを考えたデザインにすることが必要です。

○店と通りの関係では、コミュニケーションを促すことができる工夫が、横の連なりでは、にぎわいが断絶しない、歩いている楽しいと思えるような工夫が求められます。

【通りとの関係】



しゃれた雰囲気のお店



通りから中の様子がうかがえるウィンドウ



中の様子もまちなみの一部に



メニューやディスプレイを掲出している

【横の連なり】



軒先が連なるようなデザインの工夫を



のれんなどでつなぐ方法も

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



生駒駅北口：アントレいこま2・駅前広場



生駒駅北口：第4地区商業エリア

<生駒駅>

地区全体の景観形成の基本方針として、生駒の玄関口としてふさわしいにぎわいとうるおいが感じられるまちづくり、山なみと調和する良好な眺望景観に配慮したまちづくりなどが位置づけられています。



学研奈良登美ヶ丘駅：駅南口の景観



学研奈良登美ヶ丘駅：駅南口の景観

<学研奈良登美ヶ丘駅>

奈良市と接しており、土地区画整理事業により平成18年3月に新しい市街地が生まれました。

生駒市の駅前に位置する建物は、色合いや形態といったデザインを統一したり、屋外広告物の掲げる位置や大きさ等の規格を統一したりして、全体として「すっきり」とした駅前空間としています。こうした要素の絞り込みにより、結果的に店舗名などの情報が整理され見やすくなっていますし、落ち着きのある住宅地につながる駅前としてのイメージづくりにも寄与しています。

* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

○建物や屋外広告物のデザインは、特に人が多く集まる場所ほど大きく、色彩も濃いものを使用し、派手に目立たせることが重視されます。しかし、住民をはじめ繰り返し訪れる人が多い空間では、それほど目立たせなくても、何度も目にすることで情報は伝わりますし、大きさ等を統一化し要素を絞り込んだ「すっきり」としたデザインとすることで、掲出されている企業や店舗の印象を高め、まちの印象を高める、イメージアップにもつながります。落ち着いたある住宅地につながる駅前として、「すっきり感」を大切にしたいデザインを心がけましょう。

○建物の意匠や色彩などのデザインは、突出したデザイン、いろいろな要素を加える足し算のデザインよりも、周りとの協調したデザイン、シンプルな引き算のデザインを心がけましょう。

○屋外広告物は、人の視線が集まりやすく、掲出に効果的な場所を探し出し、できるだけ統一した規格ですっきりと整理して掲出するようにしましょう。掲載する情報もできるだけ絞り込み、乱雑な印象を与えないように配慮しましょう。



視線の集まりやすい場所に配置し、情報を整理

○「顔」となる空間が汚れていると、せっかくの魅力も半減してしまいます。美しく保たれるよう、管理や手入れを行いましょ。



ごみ一つ落ちていない駅前



事業所のみなさんが掃除や花のお世話をしています

関連する
パターン

こちらも参照して
ください

- ・ 9 顔となる空間
- ・ 10 人が交わる場所
- ・ 14 連歌式

コラム：要素を絞り込み、すっきりとさせるためのルールづくり

学研奈良登美ヶ丘駅の周辺では、顔となる整った空間となるように、周りに面する建物や、そこに掲げる広告についてルールを定めています。特に、広告物については「景観保全型広告整備地区」という制度を採り入れ、事前に掲出方法やデザインについて協議を行っています。

<学研奈良登美ヶ丘駅周辺景観保全型広告整備地区>

新しいまちにふさわしい広告景観づくりを行うために、平成17年4月に導入されました。広告を掲げる場合は、事前に奈良市と相談して、表示の場所、形、面積や色などについて調整をしています。



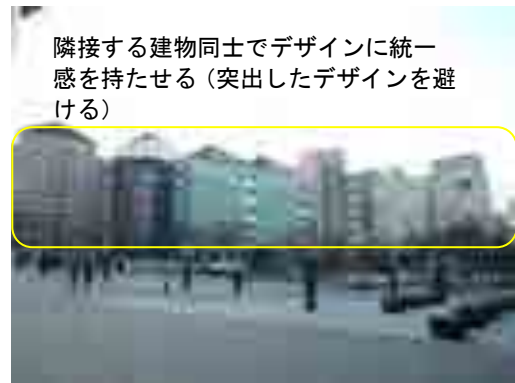
【生駒らしさをつくる設計・計画の工夫】 こんなことやってみましょう

人々のにぎわう姿を引き立てる建物・広告物のデザインを考えてみましょう。

○人々が行き交いにぎわう姿を引き立てるため、建物や看板は顔となる空間の「背景」に徹して、まわりと協調したすっきりとした配置・デザインなどの工夫を考えましょう。

○特に、駅前は何度も訪れる人が多い場所ですので、何度も見るにふさわしいデザインが求められています。乱雑なデザインになってしまえば、生駒のイメージそのものが台なしになってしまいます。

【建物のデザイン】



【広告物のデザイン】



面積を抑え、落ち着いた駅前雰囲気を演出している



面積を抑え、落ち着いた駅前雰囲気を演出している



広告物を集合化



暮らしのにじみ出し

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



暮らしの様子がにじみ出す



普段着の暮らしぶりがにじみ出している

普段、なにげなく歩く道でも、目を留めてみると、心がほっとする風景に出会うことができます。こうした普段使いの暮らしからにじみ出た風景（生活景）は、普段の景観を形づくる地模様となり、そこに人々の暮らしやコミュニティがにじみ出しています。

景観は、私たちの暮らしの中から生まれるものであるということを再認識させてくれるのです。

* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

- 普段使いの暮らしからにじみ出た風景＝「生活景」が普段の景観を形づくる地模様となっていることを意識し、普段の暮らしから生まれるにじみ出しの要素が、通りに自然と表れてくるようなしつらえとしましょう。
- にじみ出しの部分に手をかけ、日頃から美しく保つようにしましょう。
- 例えば、公園の緑とにじみ出しのみどりをつなげるなど、暮らしのにじみ出しを上手く景観づくりに活かす方法を考えましょう。
- 内部が全く見えないなどにじみ出しがうかがえないようなしつらえは避けましょう。

関連する
パターン

こちらも参照してください

- ・ 16 商いのコミュニケーション
- ・ 19 なりわいがつくる風景
- ・ 21 アクションできる余地
- ・ 26 つなぎとしきり

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



一年で最も冷え込む2月初旬に見られる竹の寒干しの風景

～古くからの茶釜師の家は農家に混じって点在し、昔からの屋敷を守って、もっぱら茶釜づくりに精魂を打ち込んできた。職人の街、夜業の街といわれた茶釜の里はここである。《『生駒市誌Ⅴ』》～

地域の風土の中で永く培われてきた、稲作といった農業のほか、茶釜や竹器製造、酒造りなどの伝統産業。茶釜や竹器の材料となる竹の寒干しが茶釜の里ならではの、また古くからの造り酒屋が生駒らしい伝統産業の風景をつくっています。

これらは産業と生活が密接に結びついたなりわい（生業）であり、風景もこのなりわいによって形作られているものですが、生活様式の変化によって、その風景は失われつつあります。



酒造の店舗

* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

- なりわいがつくる風景が、生駒の大切な景観であることを認識し、営みを継続していきましょう。
- 一人ひとりの暮らしの中で、地場産業を応援できる取り組みを考え、なりわいを支えていきましょう。

関連する
パターン

こちらも参照して
ください

・3 ヤマ・ムラ・ノラの層構造

コラム：「地産地消」を意識してみませんか？

なりわいの風景を守るには、そこでのなりわいが続けていけるかどうか、にかかっています。

最近では、安心・安全、新鮮で美味しい作物が身近に手に入るということで、地産地消の取り組みも進められています。また、伝統産業の作品に触れられたり、製作の様子を見学・体験できたりする施設もあります。

身近な直売所に足を運んでみたり、市民農園に参加してみたり、伝統産業の商品を買い求めたり・・・一人ひとりの地場産業との関わりが増えれば、なりわいの風景も維持できるのではないのでしょうか。

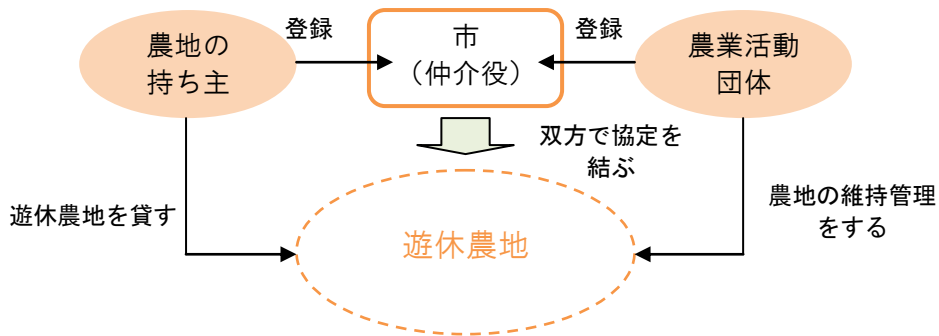


コラム：農地をみんなで支える取り組み

農地をひとりで維持・管理するのは、負担も大きく、やむなく手放すことになってしまいがち。でも、地域のみんや、農業が好きな市民活動団体などが手助けしてくれる、そんなしくみもあります。

＜遊休農地活用事業＞

農地の管理などを希望する農地所有者と耕作希望者を市が仲介するもので、遊休農地を維持管理し、景観を含めた環境の保全を進めながら耕作できる方に農地の貸付を行います。



遊休農地活用事業のしくみ



遊休農地活用の事例

【生駒らしさをつくる設計・計画の工夫】 こんなことやってみましょう

なりわいの風景を積極的に復活させましょう。

○なりわいの風景は生駒の大切な風景として、農家の皆さんだけでなく、みんなでいろいろな関わりを作りながら、復活させていきましょう。

○市内では、こうした保全活動に取り組む団体もあります。



西畑町では、地元の土地所有者で構成する「西畑町棚田を守る会」と市内外の人が棚田の保全や里山の管理に取り組んでいる「いこま棚田クラブ」が協力して棚田の保全活動に取り組んでいます
出典：いこま棚田クラブのホームページ

伝統産業のモチーフを採り入れたデザインを。

○竹の寒干しや茶釜などの伝統産業をモチーフにしたデザインを採り入れ、地域の伝統産業を目に見える形で伝えていくことも有効です。

○ただし場合によってはかえってマイナスイメージとなることがあるので注意しましょう。



茶釜をデザインモチーフに

聖なる場（パワースポット）

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



モリ（奥野の杜）



モリ（萩の台）



地蔵（萩の台）

生駒谷では市街地が拡がり、もとの集落のまとも不明瞭になってきていますが、かつて集落を取り囲むように外縁部に位置していた「七つモリ」は、今も集落の場所を知る手がかりになっています。

ムラの人々はこれらの「モリ」を畏れ敬う風習と結びついた聖なる場所として「モリさん」と呼び、大切に守ってきました。集落での暮らし方も時代とともに変わってきましたが、「七つモリ」にまつわる言い伝えは今でも受け継がれ、人々の暮らし方や空間の使い方の中に息づいています。

* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

○時代を超えて受け継がれ、集落に今も息づくモリや地蔵などのいわれのある空間は大切に守りましょう。場所の由来や伝説には素直に耳を傾け、伝承に反した土地の利用をしてはいけません。



七つモリ、神社の鎮守の杜を大切に守る



ムラはずれの大木や地藏さんの物語を継承する

○寺院やモリなどの周囲では生活感が表出しすぎないようにしましょう。厳かな雰囲気をもたすよう建物の配置やデザインを工夫するなど、植栽による見え隠れを意識しましょう。



植栽等により、生活感が出過ぎないようにする

見え隠れにより、聖なる場所の威厳を保つ

関連する
パターン

こちらも参照して
ください

- ・ 8 生駒山の修験の領域
- ・ 31 記憶の風景

コラム：「モリさん」から学ぶこと

生駒市で民俗学を研究してきた今木義法先生から、「モリさん」から学ぶことを教えて頂きましたので、ご紹介します。

～～先人たちが、モリのカミを畏敬し、きびしい禁忌を守ってきた信仰があって、その結果として、今の生駒のみどり豊かな景観が守られてきたのです。こうしたモリ（自然）への畏敬の念を忘れてはならないと思います。

往馬神社の社そう林は見事な原生林ですが、これは人間が手を加えて守ってきたのではなく、「手を加えなかったから守られてきた」のです。

急激に都市化されてしまい、モリのいくつかが消滅してしまいました。「モリを失ったことにより、自然を大切に守る豊かな心をも失ってしまった」のではないかと心配しています。

景観を考える上でも、まちの歴史と文化を大切にすることを養い、自然への畏敬の念を根底に据えることが大切だと思います。～～

コラム：生駒の伝説

生駒市で語り継がれてきた伝説などを知ることができる本をいくつか紹介します。これをもとに生駒を歩くと、また違った発見があるかも！？

- ・ 『生駒市史』
- ・ 『生駒の祭礼』
- ・ 『生駒の年中行事』
- ・ 『モリに宿るカミ 一生駒谷の七森信仰』

【生駒らしさをつくる設計・計画の工夫】 こんなことやってみましょう

聖なる場の存在を意識し、そことの関係に思いを巡らせましょう。

○聖なる場を汚すと、たたりが生じるといった伝説が残る、七つモリの伝説。それは、自然に恐れを持ち、自然と共生して暮らしてきた人間のあり方を示すメッセージだと考えられます。

○そうした場とどのような関係を持つべきなのか、について、思いを巡らせてみましょう。

【聖なる場の保存】



マンションの敷地内に樹木を残した例



宅地開発の中でほこらを移設した例



道標を保存した例

アクションできる余地

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう

環境美化や自然保全、まちづくりの活動をはじめ、人の手が加わることでぬくもりのある、また生き生きとした景観が生まれます。地域の人々が近隣の道路や公園に花を飾ったり、清掃をしたりする事例が増えています。



地域の人々によって飾られた駅前のプランター

人が入っている写真を
検討

コラム：コミュニティパーク事業

生駒市では地域の公園をリニューアルするときに、住民が参加して一緒に考えるコミュニティパーク事業という制度があります。自治会などで応募を考えてみてはどうでしょうか。

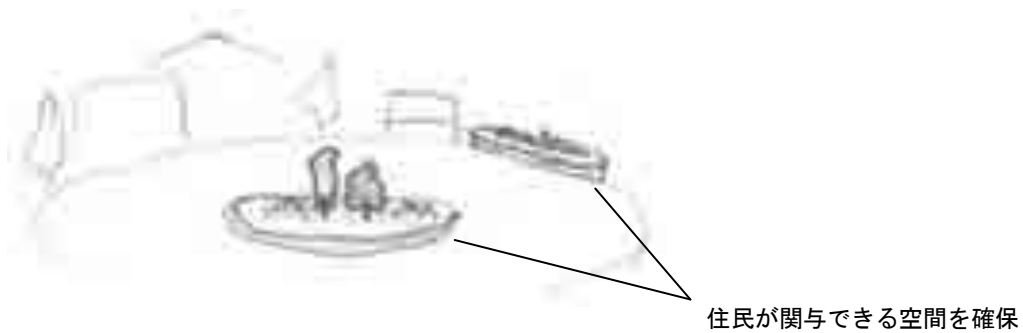
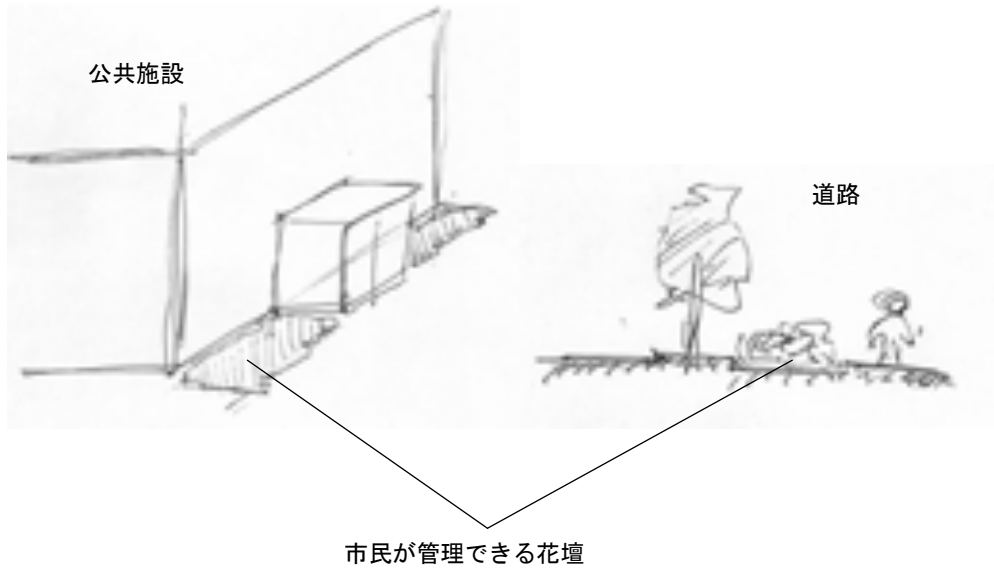


ワークショップで考えた公園のデザイン

* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

○公共建築や道路、公園などの公共空間ははじめから作り込みすぎず、市民が関われる余地を残しましょう。市民が植栽したり、自ら管理できる場所をつくりましょう。



関連する
パターン

こちらも参照してください

- ・ 10 人が交わる場所
- ・ 24 表出する緑
- ・ 26 しきりとつなぎ
- ・ 29 仮設の風景
- ・ 31 記憶の風景

【生駒らしさをつくる工夫】 こんなことやってみましょう

はじめから作り込み過ぎない

○建物は完成した直後の新しい状態が一番美しいとは限りません。例えば、住宅は住まい手がうまく住みこなしながら、手を入れることでより深みを増し、生き活きとした美しさが磨かれていくものではないでしょうか。このように、ユーザーや地域の人に関われるような余地を残しておきましょう。



【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



人の尺度で作られている生垣



人の尺度にあった地形の利用（棚田）



斜面地でも人が行き来しやすいように分節化

建築技術が発展してマンションなどの大規模な施設が建てられる以前は、基本的に全て人の手によって住宅などが作られていました。そのため、自然と人の尺度に応じた形で空間が形づくられていたのです。

そうしたスケール感は、主に農村地域を中心に読み取ることができます。高低差のある地形が多い生駒では、自然に逆らわない、無理のない方法で土地を利用してきました。高低差を埋める坂道でも、人が行き来しやすいような分節化がなされるといった工夫がなさ

れています。棚田も、土地を人の尺度に応じて分節し、利用した例と言えます。

人の力の及ぶ範囲で自然と向き合い、自然の摂理に逆らわない暮らしの中から自ずと生まれてきた空間利用のルールは水利や防災の面でも理にかなったものです。

* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

○集落や住宅地の中にある「人の尺度」にあった道沿いでは、その尺度を壊すことをないようにしましょう。道をいたずらに拡幅する、長大な垂直の擁壁を立てるなど、「人の尺度」を断絶するような行為は避けましょう。

○長大な擁壁や壁面を避け分節化するなど、できるだけ「人の尺度」に即した空間計画としましょう。



関連する
パターン

こちらも参照して
ください

- ・ 1 1 曲がった道
- ・ 1 2 坂道の見上げと見下ろし
- ・ 2 8 生駒石

【生駒らしきをつくる設計・計画の工夫】 こんなことやってみましょう

長大な壁面、柵、法面などは分節化などの工夫をし、見た目の圧迫感を軽減しましょう。

○人のスケール（1.5m）を大きく超える構造物は、見た目にも圧迫感を与えます。

○長大な壁面、柵、法面などは、分節化することでできるだけ人のスケールに近づけるようにするとともに、緑化を採り入れて印象をやわらげる工夫を行いましょう。



法面を分節化し、緑化を施した例



敷き際を人のスケールに合わせた工場の例

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



駅前から続く商店街



坂道の旅館街



山上の寺院に到着

宝山寺参道の風景の変化

奥にあるものが見えないと私たちはその先にあるものを想像し、そこに期待感が生まれます。カーブしている場所や突き当りの場所など、見通せない場所では、視界が開ける予感が高まり、期待感が生まれます。

生駒駅の駅前から続く宝山寺の参道は、寺院に近づくにつれて商店街、住宅街、旅館街と連続して街並みの趣が変わり、歩いて行くと徐々に気持ちが高まっていきます。こうした空間が参詣という体験をより印象的なものになっています。

コラム：生駒駅前にあった宝山寺の一の鳥居



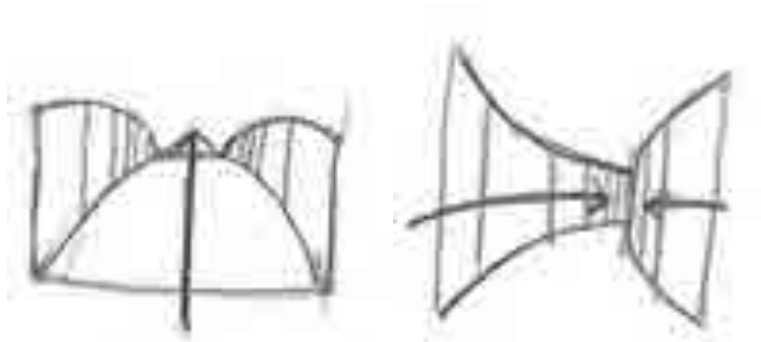
当時、一の鳥居は生駒駅南口の参道筋の入口にありました。駅に降り立った人はこの鳥居を見て宝山寺への期待感をふくらませたのではないのでしょうか。

その後、生駒駅南口の再開発事業とあわせて、宝山寺へ移設されましたが、鳥居があった証拠として、円柱のモニュメントが設置され、当時の記憶をとどめています。

* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

- 通りに沿って連続的に変化する風景（シークエンス）を意識し、奥の空間への期待感が高まるよう、奥の空間の特徴を暗示するデザインとするなどの工夫をしましょう。
- 敷地内でも通りから直接施設が見えないよう配置したり、植栽による見え隠れを工夫することで期待感を高めることができます。



連続する景色で通りの奥に視線や意識を誘導する



奥にあるものにふさわしいような、アプローチ（導入）部分

関連する
パターン

こちらも参照してください

- ・ 8 生駒山の修験の領域
- ・ 11 曲がった道
- ・ 12 坂道の見上げと見下ろし
- ・ 15 高低差の尊重
- ・ 20 聖なる場（パワースポット）

【生駒らしさをつくる工夫】 こんなことやってみましょう

○寺院や神社は地域で大切にされてきた神聖な場所です。門前や参道の雰囲気をもつよう、通りに沿って演出しましょう。



近くに神社があることを暗示する石段のデザイン。

○通りから建物が直接見えないように軸線をずらして配置したり、手前に植栽をすることで奥行き感のある街並みを生み出すことができます。



門扉と玄関の位置をずらして、植栽のスペースを生み出しています。



奥まったしつらえが期待感を生みます。

表出する緑

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



敷地内では通常、日当たりを考慮して南側に植栽や庭が配置されます。このため、東西方向の通りでは通りの北側に敷地内の緑がたくさん表出しています。一方、南北方向の通りでは通りに沿った連続的な緑は少なくなりがちです。また、敷地内に確保できる緑のボリュームや配置は敷地面積によって異なります。敷地面積が大きいと建物周囲の複数の面にまとまった緑を確保しやすくなります。

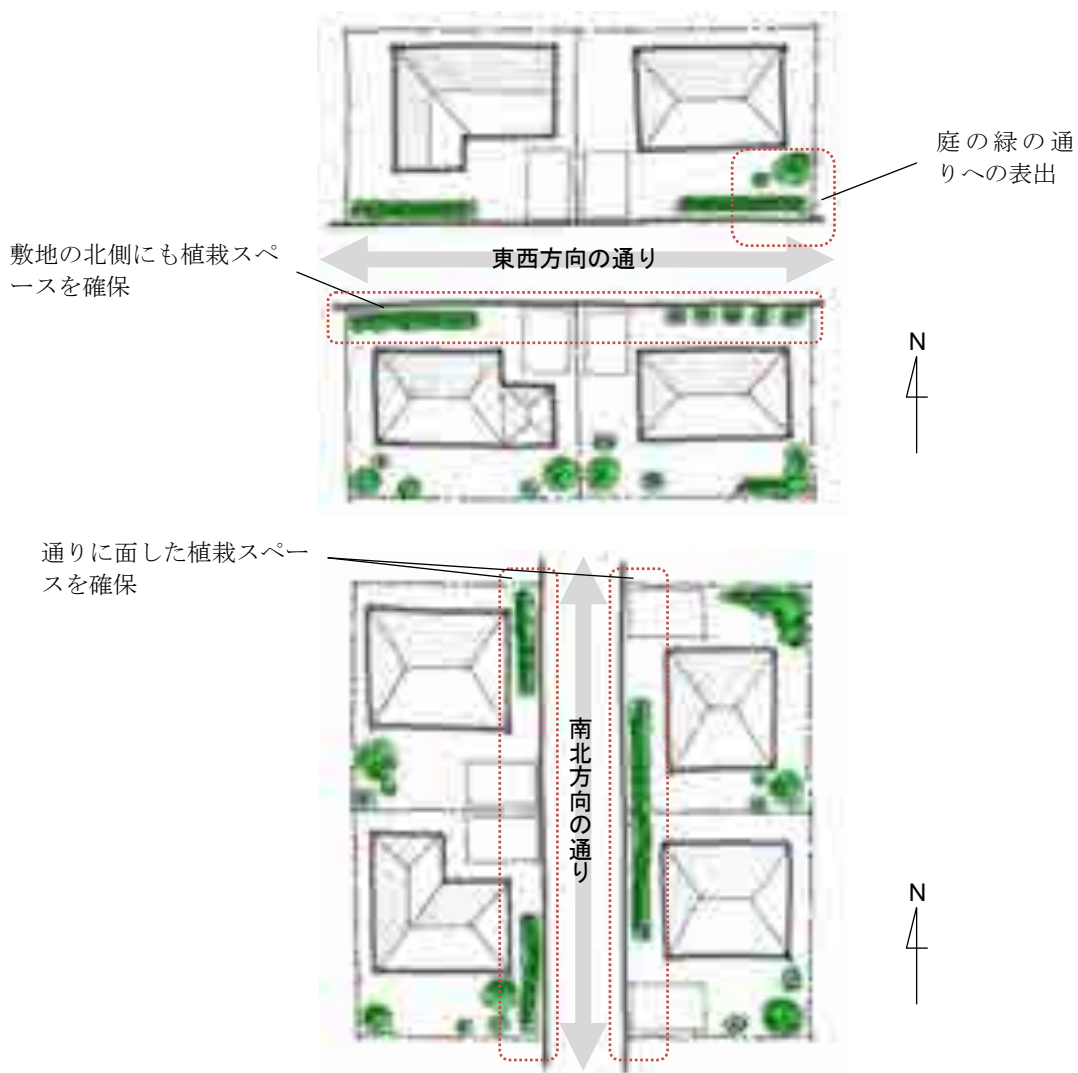
計画的に開発された住宅地が多い生駒では、こうした傾向が明確に現れた地域がたくさんあります。

* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

○東西方向の通りの南側に面する敷地には、道路際（敷地の北側）に緑化できるスペースを多めに確保するか生垣にしましょう。南北方向の通りに面する敷地は生垣とするか、街路樹を植えるなど緑の連続性をつくりましょう。

○緑の多いうるおいのある通りの街並みづくりを目指すときには、できる限り敷地面積を大きくし、また細分化を防ぐようにしましょう。



関連する
パターン

こちらも参照してください

- ・ 14 連歌式
- ・ 15 高低差の尊重
- ・ 22 人の尺度
- ・ 26 しきりとつなぎ
- ・ 30 移ろいの風景

【生駒らしさをつくる工夫】 こんなことやってみましょう

自分だけでなく通りを通る人も緑を楽しめるよう考えましょう。

○通りから見えるところの緑ができるだけ多くなるよう、植栽スペースを確保したり、窓辺に花台を設けるなど花を飾れるようなしつらえにしましょう。



店舗の窓辺に花を飾れるように花台を設けています。



通りに面して植栽スペースが設けられています。



敷地境界部に植栽スペースを設けて緑が連続するよう工夫しています。



敷地境界部に植栽を設けて、道路の植栽帯と一体となった緑豊かな空間を作っています。

○通りに面する擁壁を緑化したり、敷地内の緑が通りから見えるような工夫をしましょう。



敷地内の庭の緑と緑化した擁壁が一体となって通に緑が表出しています。

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



たくさんの緑を設けている住宅



いろんなところに緑が登場します

生駒市内の風景には必ず緑が存在します。周辺の山なみや樹林地、街路樹、神社や農地の緑を背景に、敷地際にもいろんな緑が加えられ、風景に映り込んでいるのです。

このようにどこでも緑が映り込むことが、「生駒らしい」と感じられる大きな要因となっています。

* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

○緑が生駒らしさを作る上で大切な要素であることを認識し、敷地の中でも積極的に増やすようにしましょう。

○道沿いの敷き際など、良く見えるところに緑を配置しましょう。

○樹林地などを開発し、緑が失われることがあっても、その損ねた分を代償としてどこかで緑を確保するなど、緑を減らさないようにしましょう。



法面を削って造成する際でも、できるだけ面積は小さくするとともに、緑を復元する



代償となる緑を確保する

関連する
パターン

こちらも参照してください

- ・ 18 暮らしのにじみ出し
- ・ 21 アクションできる余地
- ・ 24 表出する緑
- ・ 26 しきりとつなぎ
- ・ 30 移ろいの風景

【生駒らしさをつくる工夫】 こんなことやってみましょう

緑をできるだけいかした開発を考えましょう。

○緑があることが生駒らしさ。新たな開発地であっても、生駒らしさを損なうことは避けたいものです。

○既存の緑はできるだけ活かした開発を考えてみましょう。



既存の樹林地を残した開発の例。



斜面の樹林地を活かしながら開発した例。

緑を積極的に創りましょう。

○緑が少ない場合は、積極的に創って、緑豊かな空間を生み出しましょう。



敷地内に緑を積極的に増やした例。



コラム：緑視率とは??

見える範囲における草木の緑の割合で、まちなみや地区など広い範囲を対象にしたときの指標として用いられています。

例えば、下の写真ですと、左側が約80%、右側が約50%となり、左側の方が寄り緑の印象が高まります。



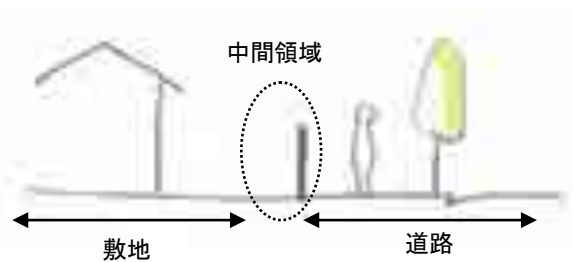
【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



左上：生け垣が連続する街並み（住宅地）

右：オープン外構の街並み（住宅地）

下：高低差を利用した「しきり」（集落）



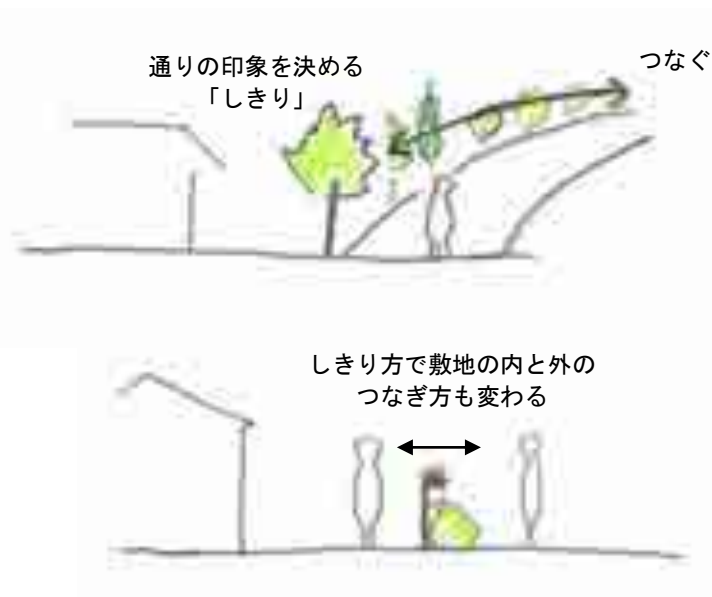
敷地と道路が接する「敷際」は、公共空間と私的空間のつなぎ目、いわば「中間領域」です。この空間の使い方、すなわち「しきり方」と「つなぎ方」を工夫することで、通りの表情を豊かにすることができます。また、隣の敷地の敷際と緑や壁面でうまくつながれば、一体感のある通りを演出でき、印象的なまちなみになります。

このようなまちなみにあった適度なしきりの作法の工夫が各所に見られます。

* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

- 昔ながらの集落ではやわらかいしきりにして親密な印象に、敷地規模の比較的大きい住宅地ではかたいしきりにして風格ある印象にするなど、通りの特徴にあわせて「しきり」方を工夫し、連続感のある心地よい通りになるよう配慮しましょう。
- そして、緑やちょっとした空間などの配置を工夫して、隣近所の敷地と積極的に「つなぐ」ことを心がけましょう。
- 通り空間と敷地との「つなぎ」方にも配慮し、暮らしの過度な露出を避けプライバシーを確保しながらも、暮らしの息遣いは伝わり、通りとのコミュニケーションを図ることができるような「つなぎ」方の工夫を考えましょう。



関連する
パターン

こちらも参照してください

- ・ 16 商いのコミュニケーション
- ・ 18 暮らしのにじみ出し
- ・ 21 アクションできる余地
- ・ 24 表出する緑
- ・ 27 受け継がれてきたデザイン
- ・ 28 生駒石
- ・ 29 仮設の風景
- ・ 30 移ろいの風景

【生駒らしさをつくる設計・計画の工夫】 こんなことやってみましょう

通りの特徴に応じて、いろんなしきり方・つなぎ方を考えてみましょう。

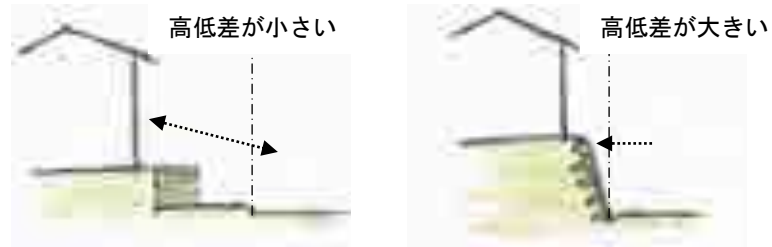
【「しきり」の方法】

やわらかいしきり ←————→ かたいしきり

緑でしきる



高低差でしきる

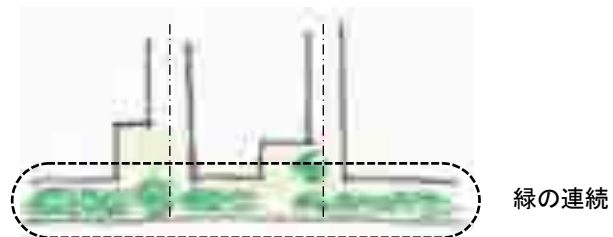


塀や垣でしきる

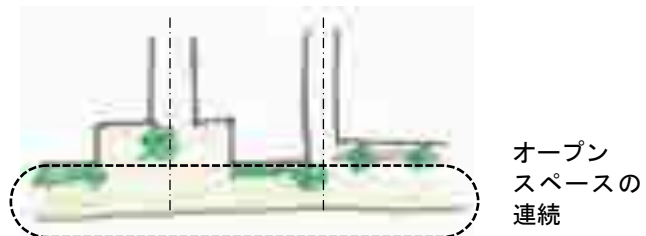


【「つなぎ」の方法】

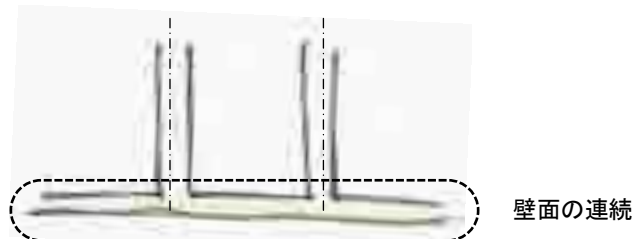
緑でつなぐ



オープンスペースでつなぐ



壁面でつなぐ



【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



【大和棟】

奈良盆地一帯で見られる、大和棟。生駒南部の地域ではカマドのある土間の部分の屋根には煙出しを設け、防火上の理由などから一段高く本高塀（ホンタカヘイ）を設ける大和棟の形態の民家が多い。

古くからの集落では、地域の風土に応じた暮らしの作法や生業の中で培われ、長い時間をかけて磨き上げられてきた伝統的な形があります。それは敷地内の建物の配置であったり、建物内部の構成、立面の意匠であったりと様々なところに見られます。

これらの必要性から生まれパターン化された「受け継がれたデザイン」は多くの地域で共通のものもあり、また地域に固有のものもあります。

* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

○人々の暮らしの中で培われパターン化されている伝統的な形態・意匠は、その背景にある意味を認識した上で尊重しましょう。全面的に採用するばかりでなく、デザインモチーフとして一部を採用するなど、新たな使い方の工夫にも挑戦しましょう。

関連する
パターン

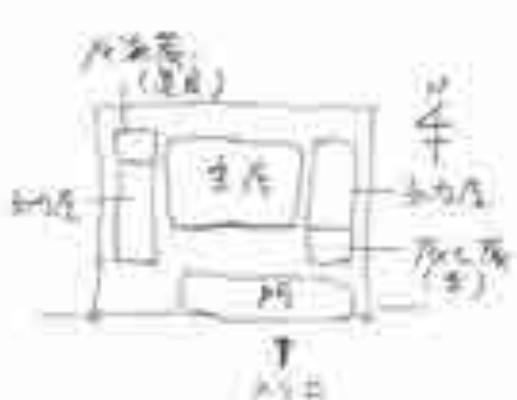
こちらも参照して
ください

- ・ 11 曲がった道
- ・ 19 なりわいがつくる風景
- ・ 22 人の尺度
- ・ 26 しきりとつなぎ

コラム：生駒の民家デザイン

生駒で仕事をされてきた大工さんに、生駒の民家デザインの特徴を教えてくださいました。

- ・ 建物の配置や間取りは、生駒谷であればどこの地域でもだいたい共通している。
- ・ 門口（入り口）や門は辰己（南東）の方向に配置し、門は入り口とは少しずらすように構える。道路からこの方角に入ることができるように、屋敷の敷地が立地した（道路の北側に敷地がある）。
- ・ 北田原・南田原では門を設けるのが普通で、門がないと「門があらへん家や」と村の人に言われてしまう。一方上町は門ではなく石積みと生け垣が多い。



方位を意識した建物の配置

- ・ 屋根は主にくず屋葺きが多い。お金のある家は入母屋造り。屋根のむくりは垂木一本分（2寸）つける。
- ・ 屋根は4寸から4寸5分勾配が標準、大棟は梁と垂木が同じ長さで、勾配はほぼ60度になる。
- ・ 南地域では大棟よりも本高塀を一段高く設ける場合が多い。北地域では高塀は大棟よりも下げる。

【生駒らしさをつくる工夫】 こんなことやってみましょう

古いものの良さに気づき、伝統的なものを新しい視点でアレンジしましょう。

○伝統的なデザインの背景には意味があることが多いものです。こうした意味合いを理解して、新しい視点から捉え直してデザインしましょう。



伝統的な大和棟を現代の建物にアレンジしてデザインしています。

○過度な装飾やデザイン手法を駆使するのではなく、シンプルで形態の持つ本来の美しさを表現しましょう。

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



生駒石による石積み



暗峠の石畳

生駒山の一带で産出されてきた生駒石は、表面の独特の風合いから庭石や石積みに好んで使われてきました。集落内の民家はもちろんのこと、生駒台や東生駒などの計画的に開発された住宅地内でも多く見ることができます。また、暗峠の石畳の石材としても使用されています。

地場産の材料を使うことで、運搬や施工の合理性とともに、地域の風土になじんだ景観が生まれます。

コラム：建築材料は現地調達が基本

生駒の大工さんによれば、「瓦は昔は南田原で焼いて製作していた」「壁の土は昔はそれぞれの家で山から取ったものを使っていた」「庭石や石垣の石は、生駒山麓で広く採石される生駒石が主流だった」というお話が出てきます。

昔は運搬の手段が発達していなかったため、できるだけ現地の近くで採れる材料を使うというのが基本だったようです。

* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

○風土に溶け込む地が生み出した材料を積極的に採用しましょう。生駒石を擁壁の石積みや庭石に用いる他、デザイン要素としての利用を考えましょう。

関連する
パターン

こちらも参照して
ください

- ・ 1 2 坂道の見上げ・見下ろし
- ・ 1 5 高低差の尊重
- ・ 2 2 人の尺度
- ・ 2 6 しきりとつなぎ
- ・ 2 7 受け継がれてきたデザイン

【生駒らしさをつくる工夫】 こんなことやってみましょう

生駒石を使う。

○石垣をつくるときはできるだけ生駒石を使いましょう。地場産の材料は地域の風景に一番なじみます。

○石垣以外にも庭石などいろいろな使い方を工夫をしてみましょう。



生駒石を使った石垣と生け垣

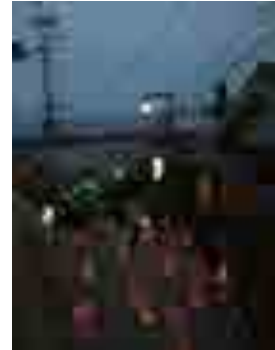


生駒石の庭石

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう

毎年めぐってくる年中行事や、人生の節目で訪れる儀礼などの伝統行事は、暮らしの中に根付いた文化として受け継がれてきました。また、自治会や商店街で催されるお祭りなども同様に、人々の手によって継承されてきました。これらの特別な時期には見慣れた風景も特別な装いを見せます。それは常に目にする日常の風景に対し、一時的に表れるハレの日の仮設の風景でもあります。

宝山寺のお彼岸万灯会では多くの蠟燭の明かりで参道から境内の周辺は幻想的な装いを見せます。



宝山寺の万燈会

どんどこまつりの時期には駅前も提灯で飾られます。



どんどこまつり

多くの買い物客で賑わう100円商店街では赤いのぼりで演出されます。



100円商店街

* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

○祭りが行われる神社の参道や神輿、だんじりのルートなど、伝統行事の舞台となる場所ではハレの日の演出ができるようあらかじめ考えたデザインとしましょう。

全体の統一感に気を配る
(メリハリをつける、過度にしすぎない)



のぼり、のれんなど、仮設の装置でハレの日を演出する

○商店街ではイベント時に統一したバナーを飾るなど、通り全体でのにぎわいの演出を考えましょう。

○住宅地では近隣の人と協力して夜間のイルミネーションを飾るなど、暮らしの場を演出することもできます。



住宅地のイルミネーション（大阪）

関連する
パターン

こちらも参照してください

- ・ 16 商いのコミュニケーション
- ・ 23 期待感
- ・ 30 移ろいの風景
- ・ 31 記憶の風景

【生駒らしさをつくる工夫】 こんなことやってみましょう

ハレの時を演出しましょう。

○商店街でセールやイベントをやるときにはにぎわいを演出するような飾り付けをしましょう。バナーや暖簾ひとつで普段と雰囲気を変えることができます。



100円商店街ののぼりとPOP イベントに合わせたバナーの掲出（寝屋川）



七夕の飾り付け

演出できるしつらえを。

○ハレの飾り付けができるようしつらえましょう。

移ろいの風景

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう

一日のうちでも昼間～夕暮れ～夜間と時間帯によって刻一刻とまちの表情は移ろっていきます。また、晴れた日と雨の日でもまちの印象は変わります。季節によっても背景の自然や人々の営みが異なるため、まちの風景も違って見えます。

夜間には細かなところが見えないので、昼間の風景よりもすっきりと整理された印象となります。また、照明によって印象は大きく変わります。

写真：夜の風景

雨の日などに建物や道路が濡れている時には晴れた日とは質感が異なって見えます。また空の色や陽の光の強さは見た目の風景の印象にも影響します。



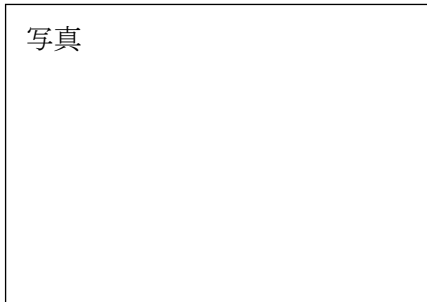
宝山寺参道（晴れの日）



（雨の日）

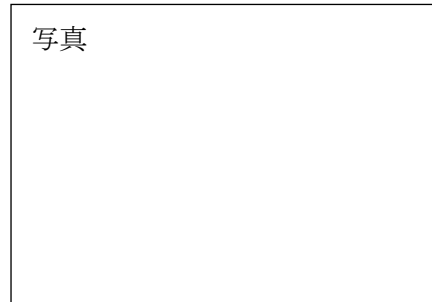
山などの自然の風景や街路樹、公園の緑は季節によって異なる表情を見せます。

写真



街路樹（春～夏の風景）

写真



街路樹（秋～冬の風景）

* * *

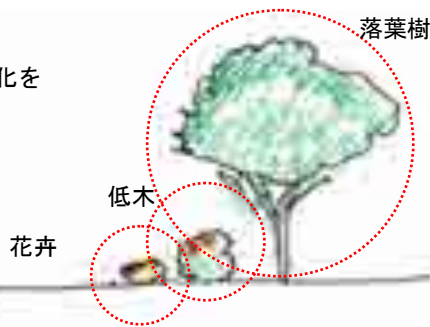
【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

○紅葉する樹木や落葉する樹木、実のなる樹木など季節感を感じられる樹木、あるいは花の植栽による季節感の演出に配慮しましょう。

花卉などで季節感を演出する



多層的な緑化を
採り入れる



○店舗などは夜の装いを考えた夜間照明を工夫しましょう。安全上必要な明るさを確保しつつも、必要以上に明るすぎず、陰影による効果的な演出を心がけましょう。

関連する
パターン

こちらも参照して
ください

- ・ 29 仮設の風景
- ・ 31 記憶の風景

【生駒らしさをつくる工夫】 こんなことやってみましょう

季節感を意識できるようデザインしましょう。

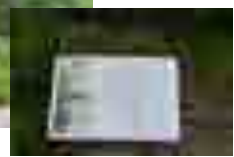
○道行く人が季節を感じることができるよう、通りから見えるところに植栽スペースや花を飾れるスペースを設けます。



玄関先に季節感のある花を飾っています。



里山的な植生をめざして、様々な樹種を混ぜています。



○通りから見える位置に花の咲く木や実のなる木を植えて季節感を演出しましょう。



花の咲く木



実のなる木

○お店では閉店時の見え方も意識しましょう。閉店後も部分的にショーケースを照らすことなども考えてみましょう。



閉店後もショーウィンドウを照らしています。

コラム：景観づくりに役に立つ植栽の仕方

植栽は季節によって移ろい、さまざまな表情で私たちの目を楽しませてくれます。緑が多い生駒にあって、植栽の使い方を意識し、工夫することはとても大切です。ここでは、その基本的な内容をご紹介します。

●植栽の種類

・芝生（草生）

直接自然に触れることができ、そこで遊び、いこい、寝ころぶといった人の活動の場になります。まちの気候の緩和などにも役立ちます。

・花卉・低木類

手近な緑として、花や香りを提供してくれるだけでなく、敷地の境界部分に植えることで「まちの整理役」ともなります。わずかな土地でも植えることができ、土地と人、高木類とをつなぐ役割もあります。

・高木類

まちに自然の景観を提供してくれるもので、空気の浄化や騒音の緩和、防災や都市活動などさまざまな面で効果を発揮します。また、建物との調和にも役立ち、桜を愛でるといったレクリエーションの働きもあります。



●植栽場所の選び方

樹木の特徴に応じて植栽の場所を選べば、より効果的に緑を見せ、楽しむことができます。ここでは工夫の一例を示します。

・位置とバランスを考える

平面や立面で見た時に、植栽がバランス良く配置されているかを考えましょう。

・建物との関係を考える

植栽の位置によって建物の見え方も左右されます。建物との関係も考えましょう。

・緑の演出を考える

視線の集まる場所などに効果的に見せたい緑を置きましょう。



出典：『庭木と街路樹』

専門の視点から監修頂く必要
(下記はサンプルとして例示)

●樹種の選び方

生駒市の気候に適した植生を選んでみましょう。以下に一例を挙げます。

	高木	低木
<常緑広葉樹> 耐陰性が強く、冬季に葉が落ちません。	シラカシ、アラカシ（市の木）、クス、ユズリハ、キンモクセイ・・・	シャリンバイ、サツキツツジ、アオキ、マサキ・・・
<常緑針葉樹> 濃い緑が特徴で、冬季に葉が落ちません。	アカマツ、クロマツ、ヒマラヤスギ、モミ・・・	-
<落葉広葉樹> 冬季に葉が落ちますが、四季の変化を楽しむことができます。	シダレヤナギ、コナラ、クヌギ、エノキ、ケヤキ、カツラ・・・	ネコヤナギ、ヤマブキ、ハナアジサイ、ドウダンツツジ、ヤマツツジ・・・

光源や照明手法を工夫しましょう。

○間接照明や複数の光源を効果的に用いることで立体感を表現することができます。



複数の光源によって建物を立体的に演出しています。



敷地内の植栽を色温度の高い光源で効果的にライトアップしています。

時間とともに味わいが深まるようデザインしましょう。

○石材や木材などの自然素材などを用いて、時間とともに風合いを深めるエイジング効果を考えてデザインしましょう。

記憶の風景

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう

私たちは同じ風景を見ても、一人ひとりの経験や知識によって心に浮かんでくるものや記憶に残るものは異なります。それぞれの心に残るものこそが景観であるとも言えます。多くの人の記憶に共通して残るなつかしい風景は生駒のイメージをつくるものであり、大切にしていく必要があります。

学校の校歌や校章には、後世に伝えていきたいふるさとの風土への思いが託されてきました。また、古くからの地名の中には先人が土地に対して抱いた印象や思いが語り継がれてきたものがたくさんあります。これらは多くの人々が持っている記憶の風景を探る手がかりとなります。

コラム：小学校の校歌に込められた風景の記憶

後世に伝えていきたいふるさとの風土への思いが校歌や校章に託されることがあります。

生駒市内の小学校の校歌には、生駒山が堂々たる様子で鎮座している様子や、人々から神聖視されている様子の表現が使用されています。一方で、矢田丘陵には爽やかで軽やかな印象を受けます。

また、「歴史にかおる」などの歴史があることを示す表現も見られることから、竜田川水系、富雄川水系ともに、古い歴史を持つ地域であるという想いが地域の人々の間で共有されていたことが考えられます。

小学校の校歌に謳われた風土のイメージ

生駒山

- ・「どっしり」「強い」と結びつきが強く、「霊峰」や「仰ぎ見る」など、神聖さの表現も使われています。

矢田丘陵

- ・「清い」など、比較的軽くさわやかな表現が用いられています。

生駒川（竜田川）・富の小川（富雄川）

- ・「きらきら」や「さわやか」、「せせらぎ」など、清い流れと結びつきが強い表現が用いられています。
- ・竜田川水系、富雄川水系ともに、「歴史にかおるふるさと」など、古い歴史に言及する表現が用いられています。

* * *

【生駒らしさをつくるために大切なこと】 これだけは守りましょう

- 地域に根ざした景観をつくっていくために、先人が伝えてきた風土への思いを確認しましょう。そして、それぞれの場所の性格に応じて印象的な風景の要素となるデザインを工夫しましょう。それが多くの人の記憶に残る景観をつくれます。

- 場所の記憶を継承していくため、空間の構成を大きく変えないように配慮したり、かつての風景をイメージさせる手がかりとなるものを残すなどの工夫を考えましょう。

関連する
パターン

こちらも参照してください

- ・ 1 生駒山への意識
- ・ 9 顔となる空間
- ・ 11 曲がった道
- ・ 13 通りのプロポーション
- ・ 19 なりわいがつくる風景
- ・ 20 聖なる場（パワースポット）
- ・ 22 人の尺度
- ・ 30 移ろいの風景

【生駒らしさをつくる工夫】 こんなことやってみましょう

場所の記憶を引き継ぐ。

○建物を改修するときは、もともとの建物の印象を継承すると場所の記憶を継承することができます。



もともとの建物のデザインを継承して改修された店舗。

○みんなの記憶にあるものはできるだけ残しましょう。そのまま残すだけでなく、象徴的な形や空間の特徴を継承するなど工夫しましょう。



かつての線路の形状をシンボル化して公園に埋め込んでいます。
(西宮)